

領域	基礎分野 科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解	開講時期	1年 前期																														
科目名	論理学	単位数 (時間数)	1単位 30時間																														
講 師	非常勤講師																																
授業内容（概要）																																	
<p>一、目的 論理的な思考を身につけ、他の諸学問を学ぶための基礎とする。</p>																																	
<p>二、目標 論理的な思考の法則を学ぶ。自分の考えを、正しい日本語で表現できる力を磨く。</p>																																	
<table> <thead> <tr> <th>三、内容</th> <th>時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. なぜ論理学を学ぶか？</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2. 論理学の概要</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>3. 論理的思考の意味</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>4. 論理的思考を身につける方法</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td> (1) 物事の因果関係</td> <td></td> </tr> <tr> <td> (2) 物事の時系列関係</td> <td></td> </tr> <tr> <td> (3) 物事の大小関係</td> <td></td> </tr> <tr> <td> (4) 物事の優劣関係</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 論理的に話す</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>6. 論理的な人と論理的でない人の比較</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>7. 論理的な思考と情報（知識）の整理</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>8. 論理的な表現力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 論理的思考と考える力</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>10. 論理的思考と話す力</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>				三、内容	時間	1. なぜ論理学を学ぶか？	1	2. 論理学の概要	1	3. 論理的思考の意味	1	4. 論理的思考を身につける方法	4	(1) 物事の因果関係		(2) 物事の時系列関係		(3) 物事の大小関係		(4) 物事の優劣関係		5. 論理的に話す	1	6. 論理的な人と論理的でない人の比較	1	7. 論理的な思考と情報（知識）の整理	1	8. 論理的な表現力		9. 論理的思考と考える力	1	10. 論理的思考と話す力	2
三、内容	時間																																
1. なぜ論理学を学ぶか？	1																																
2. 論理学の概要	1																																
3. 論理的思考の意味	1																																
4. 論理的思考を身につける方法	4																																
(1) 物事の因果関係																																	
(2) 物事の時系列関係																																	
(3) 物事の大小関係																																	
(4) 物事の優劣関係																																	
5. 論理的に話す	1																																
6. 論理的な人と論理的でない人の比較	1																																
7. 論理的な思考と情報（知識）の整理	1																																
8. 論理的な表現力																																	
9. 論理的思考と考える力	1																																
10. 論理的思考と話す力	2																																
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）																																	
講義と演習（文章作成等） レポート提出																																	
テキスト・参考文献																																	
なし 講義時資料配布																																	
評価方法																																	
試験 95%、課題レポート 5%で評価する。																																	

領域	基礎分野 科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解	開講時期	1年 後期
科目名	文化人類学	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講 師	非常勤講師		

授業内容（概要）

文化人類学は、ヨーロッパの学者が、かつての植民地や未開の土地に彼らのものとは異なる文化や生活習慣を発見して驚いたこと、に始まります。今日では、地球上のあらゆる地域の文化や生活習慣が探求されるようになり、研究領域が大幅に広がりました。文化人類学の研究方法の特徴は、実際に現場に出かけて行って、そこに暮らす人々から直接に情報を手に入れることです。こうして、世界のさまざまな異文化を比較検討し、自分たちの文化や生活習慣を改めて見直すことができます。それにより、お互いの理解も深まります。

この講義では、文化人類学によって得られたこうした知見を学びます。それによって、人間の文化や生活習慣の多様さと共通性を理解します。そうすることで、わたしたちの身の回りの文化的な有様を、改めて捉え直し、その意味を考えます。ひいては、広い視野から世界の人々の文化と生活習慣を理解する手がかりを得ることを目指します。

本講義は、以下のテーマ（内容）を中心にして進みます。

1. <人間と文化>：文化人類学の基本的な考え方と、研究方法の特徴を概観します。
2. <人ととのつながり>：家族や親族という血縁にもとづくつながり、またそれを超えるコミュニティー（学校・職場）や国家社会にまたがるつながり、といった人と人との多様なつながりについて学びます。
3. <人のライフ・サイクル>：人生にはさまざまな節目があります。目に見えない時間を区切ることによって、わたしたちは成長し生き方を学びます。そして、そのような生き方を次世代につなぎます。
4. <科学・技術・環境>：地球環境の姿を理解するために人類が行ってきた知的探求の遺産である科学と、それを応用して快適で便利な生活を送るために開発した技術の、光と影について考えます。
5. <宗教と世界観>：世界のあり様についての基本的な観方と、人の生き様についての基本的な観方について学びます。
6. <身体・健康・治療>：身体を持った存在である人間は、治療によって病気を克服し健康を取り戻してはじめて、人間らしい生き方ができることを学びます。
7. <人間と死>：神ならぬ人間は、有限的であり、いつかは死を迎えます。死の恐怖や不安を人はいかに克服しようとしたか、その工夫や知恵を学びます。

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

毎回、授業の終わりに、意見や感想を書いてもらいます。

主テキスト

系統看護学講座、基礎分野 『文化人類学』（医学書院）

参考文献

適宜、示します。

評価方法

平常点 10%及びレポート 90%により評価します。

領域	基礎分野 科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解	開講時期	2学年 前期			
科目名	倫理学	単位数 (時間数)	1単位 30時間			
講 師	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
<p>〈目 標〉</p> <p>1 個々のテーマについて読解を進める中で、論理的思考力を身につける。 2 現代に特有の倫理的なテーマについての理解を深める。 3 実践の場で発揮できる倫理的な判断力を深める。</p>						
<p>〈内 容〉</p> <p>1 虐をつくこと（教科書第1節） 2 功利主義（2節） 3 葉の配分方法（3節） 4 エゴイズム（4節） 5 幸福の計算（5節） 6 判断能力と価値判断（6節） 7 価値判断と事実判断（7節） 8 正義の原理（8節） 9 思いやから道徳（9節） 10 囚人のジレンマ（10節） 11 愚行権（11節） 12 貧しい人への義務（12節） 13 未来の人への義務（13節） 14 正義の変化・科学の限界（14、15節）</p>						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
講義						
<p>主テキスト 加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫</p>						
参考文献 なし						
<p>評価方法 レポート 20%、試験（筆記） 80%</p>						

領域	基礎分野 科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解	開講時期	2年 前期			
科目名	教育学	単位数 (時間数)	1 単位 30 時間			
講 師	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
<p>〈目的〉</p> <p>教育は、日常生活の人と人との関わりによって、成長・発達を保障することにある。本講義では、教育とはそもそも何かという問いを、学校教育だけでなく家庭や社会教育をふまえて考察する。</p> <p>〈目標〉</p> <p>教育とは何かという原理的な問い合わせができる、子ども・家庭・学校・地域それぞれの相互関係を理解することをめざす。</p> <p>また、教育や福祉が人の生活に深く関わっていることを理解し、教育の基本・理念・作法について学習を深め、ケアリングに活かす基礎的能力を身につける。</p> <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 教育の基本概念（1）人間と教育に関する思想 2 教育の基本概念（2）発達と教育のダイナミックなとらえ方—発達の最近接領域 3 教育の基本概念（3）人間は社会のなかで人間になる 4 教育の基本概念（4）子どもに何を学ばせるか—形式陶冶と実質陶冶 5 教育の基本概念（5）学校教育と学校外教育 6 教育学の歴史（1）西洋の教育史とその思想 7 教育学の歴史（2）中国の教育史とその思想 8 教育学の歴史（3）日本の教育史とその思想 9 教育と家庭（1）愛着の形成と子どもの発達 10 教育と家庭（2）よく遊び・よく学べ—遊びを通じての学習 11 教育と家庭（3）すべての乳幼児の発達を保障する保育 12 教育と社会（1）生涯にわたる学習構想 13 教育と社会（2）生涯教育実現の一方策としてのリカレント教育 14 教育と社会（3）教育と福祉の統合をめざす地域づくり 15 定期試験 						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
講義						
テキスト・参考文献						
なし 講義の中で適宜参考文献を紹介する。						
評価方法						
講義で行う小レポート 10% と定期試験 90% で総合的に評価する。						

領域	基礎分野 科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解	開講時期	1年 前期
科目名	心理学	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講 師	非常勤講師		

授業内容（概要）

科目目的：心理学の基礎的知識・技術を習得することにより、看護の対象である人間（患者）の心や行動を多面的に理解するとともに、特に臨床面における心理学的な見方や考え方について学ぶ。

科目目標：人間の心理や行動における心理学の知識や技術を看護領域で活用できるよう、自己理解を深めるとともに他者(患者をはじめとする医療従事者等)の心理理解に活かす専門的能力を身につける。

学習項目	授業内容	時間	他科目との関連
心理学の基礎知識	1. 心理学とは 1) 心理学の対象 2) 歴史	2	カウンセリング論の基礎的演習、各発達段階における心理の理解につなげ、看護領域への活用に応用していく。
看護における心理学	2. 看護における心理学の領域 1) 看護と心理学との関係 2) 臨床場面における人間関係	2	
	3. 人間の発達 1) 乳幼児から老年期へ 2) 身体・知能の発達 3) 感情・情動の発達	4	
	4. 認知からの人間理解 1) 認知とは 2) 感覚・知覚の成立と機能 3) 記憶の構造と忘却	4	
	5. 行動からの人間理解 1) 欲求と動機づけ 2) 葛藤とストレスのメカニズム	2	
	6. パーソナリティーからの人間理解 1) 生得性と環境との相互作用 2) テスト法による知能・性格面の理解 3) 人格の形成	4	
	7. 適応のメカニズム 1) ライフサイクルにおける不適応と適応 2) 不適応への対処(適応機制)	4	
	8. 臨床場面における面接法 1) 倾聴の目的と重要性 2) 倾聴の具体的方法	2	
自己理解と演習	9. 自己理解を深める（演習） 1) 描画法による自己理解 2) 作業検査法による自己理解 3) 倾聴演習における自己理解	6	

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

講義、演習が中心となる。

看護の対象となっている人間の心理を理解する、特に臨床面での人間の心理を理解することが重要である。講義に偏らず、できるだけ演習を通して、またプライバシーに注意しながら自己理解・他者理解を進めていく。

主テキスト

系統看護学講座「心理学」(医学書院)

参考文献

なし

評価方法

試験 90%、課題レポート 10%で評価する。

領域	基礎科目	開講時期	2年前期																														
科目名	カウンセリング論	単位数 (時間数)	1単位 30時間																														
講 師	非常勤講師																																
授業内容（概要）																																	
<p>＜目的とねらい＞</p> <p>カウンセリングの基本姿勢及び基本的な技法を学び、心理療法との関連についても触れながら、看護場面で活用できるようにする。</p> <p>また、現場で出会うクライエント・家族に見られる状態像等や支援のあり方についても学び、臨床場面での効果や限界についても考える機会とする。</p>																																	
<p>＜到達目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの基本姿勢を身につけ、活用することができる ・カウンセリングの基本的な技法を身につけ、活用することができる ・クライエントだけでなく、彼らを取り巻く人々にもアプローチをすることができる 																																	
<p>＜内容＞</p> <p>概ね以下を予定している。ただし、進捗に応じて内容の変更があり得ることを申し添える。</p> <table> <tbody> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>対人関係の心理からカウンセリングの意義を考える</td> </tr> <tr> <td>2. こころの問題とは</td> <td>誰にかかわるのか、背景に迫る、「治る」と「もとどおり」</td> </tr> <tr> <td>3. コミュニケーションを考える（1）</td> <td>言語的・非言語的コミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>4. コミュニケーションを考える（2）</td> <td>対人距離、メーラビアンの法則、防衛機制</td> </tr> <tr> <td>5. カウンセリングの基本姿勢</td> <td>ラポール、共感、傾聴など、相談等との違い</td> </tr> <tr> <td>6. カウンセリングの基本技法</td> <td>繰り返し、反射、感情の明確化など</td> </tr> <tr> <td>7. 演習を通した理解（1）</td> <td>ラポール形成の演習（数種類）</td> </tr> <tr> <td>8. 演習を通した理解（2）</td> <td>非言語的手段の演習、聴いてもらえない演習（数種類）</td> </tr> <tr> <td>9. 演習を通した理解（3）</td> <td>対人関係のあり方演習、ダブルバインド演習（数種類）</td> </tr> <tr> <td>10. 演習を通した理解（4）</td> <td>非言語的態度の演習、共感と感情の反射の演習（数種類）</td> </tr> <tr> <td>11. カウンセリングと家族療法</td> <td>家族へのアプローチを考える</td> </tr> <tr> <td>12. 演習を通した理解（5）</td> <td>リフレーミング、会話としての応答の留意点</td> </tr> <tr> <td>13. カウンセリングと行動療法（1）</td> <td>行動形成と問題行動への対応を考える</td> </tr> <tr> <td>14. カウンセリングと行動療法（2）</td> <td>強化刺激、消去、飽和、カームダウンなど</td> </tr> <tr> <td>15. カウンセリングと自己/他者理解</td> <td>自己開示とフィードバック、アサーション</td> </tr> </tbody> </table>				1. オリエンテーション	対人関係の心理からカウンセリングの意義を考える	2. こころの問題とは	誰にかかわるのか、背景に迫る、「治る」と「もとどおり」	3. コミュニケーションを考える（1）	言語的・非言語的コミュニケーション	4. コミュニケーションを考える（2）	対人距離、メーラビアンの法則、防衛機制	5. カウンセリングの基本姿勢	ラポール、共感、傾聴など、相談等との違い	6. カウンセリングの基本技法	繰り返し、反射、感情の明確化など	7. 演習を通した理解（1）	ラポール形成の演習（数種類）	8. 演習を通した理解（2）	非言語的手段の演習、聴いてもらえない演習（数種類）	9. 演習を通した理解（3）	対人関係のあり方演習、ダブルバインド演習（数種類）	10. 演習を通した理解（4）	非言語的態度の演習、共感と感情の反射の演習（数種類）	11. カウンセリングと家族療法	家族へのアプローチを考える	12. 演習を通した理解（5）	リフレーミング、会話としての応答の留意点	13. カウンセリングと行動療法（1）	行動形成と問題行動への対応を考える	14. カウンセリングと行動療法（2）	強化刺激、消去、飽和、カームダウンなど	15. カウンセリングと自己/他者理解	自己開示とフィードバック、アサーション
1. オリエンテーション	対人関係の心理からカウンセリングの意義を考える																																
2. こころの問題とは	誰にかかわるのか、背景に迫る、「治る」と「もとどおり」																																
3. コミュニケーションを考える（1）	言語的・非言語的コミュニケーション																																
4. コミュニケーションを考える（2）	対人距離、メーラビアンの法則、防衛機制																																
5. カウンセリングの基本姿勢	ラポール、共感、傾聴など、相談等との違い																																
6. カウンセリングの基本技法	繰り返し、反射、感情の明確化など																																
7. 演習を通した理解（1）	ラポール形成の演習（数種類）																																
8. 演習を通した理解（2）	非言語的手段の演習、聴いてもらえない演習（数種類）																																
9. 演習を通した理解（3）	対人関係のあり方演習、ダブルバインド演習（数種類）																																
10. 演習を通した理解（4）	非言語的態度の演習、共感と感情の反射の演習（数種類）																																
11. カウンセリングと家族療法	家族へのアプローチを考える																																
12. 演習を通した理解（5）	リフレーミング、会話としての応答の留意点																																
13. カウンセリングと行動療法（1）	行動形成と問題行動への対応を考える																																
14. カウンセリングと行動療法（2）	強化刺激、消去、飽和、カームダウンなど																																
15. カウンセリングと自己/他者理解	自己開示とフィードバック、アサーション																																
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）																																	
教授方法=講義と演習																																	
教材等=プロジェクター投影による授業、原則として配布資料は用意せず、受講生各自が書き写しながら1冊のノートを仕上げるようにする																																	
テキスト・参考文献																																	
テキスト=使用しない（自作教材を使用）、参考文献=心と関わる臨床心理（ナカニシヤ出版）他																																	
評価方法																																	
「授業参加状況等」10%、「試験」90%を総合して評価																																	

領 域	基礎分野 科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解	開講時期	1年 前期
科目名	社会学	単位数 (時間数)	1 単位 30 時間
講 師	非常勤講師		

授業内容（概要）

みなさんは、「社会学」とはどのような学問だと考えますか。社会学は、普段あまり意識することのない「個人と社会の関係」がどのように成り立っているのかを理論的に考察していく学問のことです。

この授業では、社会学の基本的な考え方や理論を学び、現代社会の変化とグローバル化に焦点をあて、社会学の基礎的から看護と介護に関する分野について一緒に考えていきます。

授業をおおして、「社会学のものの見方」を獲得し、変わる世界と私たちを囲む社会における多様な問題を取り上げます。

1. 社会学とは何か？
2. 社会学における理論的思考
3. グローバル化と変動する社会
4. 都市生活
5. 少子高齢化
6. 現代社会とジェンダー
7. 医療の社会学
8. キュアからケアへ
9. グローバリゼーション時代の看護と介護

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

基本的に講義形式で行い、必要に応じてグループワークを実施します。

主テキスト

なし

参考文献 アンソニー・ギデンス「社会学 第五版」而立書房

濱野健・須藤廣 編集「看護と介護のための社会学」明石書店

評価方法

平常点（授業参加状況）50%と最終試験50%で評価

領域	基礎分野 科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解	開講時期	1年 前期
科目名	英会話	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講 師	非常勤講師		

授業の内容（概要）

〈目標〉

To review and improve English communication skills,
Build practical English vocabulary; Expand English communication ability.

(英語のコミュニケーション能力を伸ばすため、英語の語彙力を確立する。
英語のコミュニケーション能力を発展させる。)

〈内容〉

Week 1: Orientation 【オリエンテーション】

Week 2～14: Vocabulary Practice 【語彙の練習】

Communication Practice Topics

—Food	—Japan	—Shopping	—Music
—Transportation	—Work	—Family	
—Travel	—Europe	—Famous People	
—Sports	—Home	—Health	—Entertainment

Week 15: Examination. 【試験】

※All classes include Question Building Practice.

(毎授業に実践的な問題を含めます)

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

1. 講義 2. 演習

—all instruction done in English (講義は英語で行われます)

—Students are expected to communicate in English (授業中、学生は英語でコミュニケーションをとることが望ましい)

—monthly vocabulary quizzes (毎月英語の語彙クイズを実施します)

テキスト・参考文献

“Let’s Talk About It” by PERSON Longman Craig Drayton & Mark Gibbon

—a good “Learner’s” dictionary will be needed by every student in every class (毎回、学習者用の辞書を持参すること。電子辞書でも構いません)

評価方法

1. 試験（筆記・口述） 100%

領域	基礎分野 科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解	開講時期	2年 前期			
科目名	英語講読	単位数 (時間数)	2単位 30時間／45時間			
講 師	非常勤講師					
授業内容（概要）						
<p><目的>食や健康に関連ある英文を通して読解力を養う。</p> <p><目標>専門用語などの語彙力向上を図り、基礎的な表現を覚える。</p> <p><内容>以下の13章と復習テストから成るテキストを使用する。</p> <p>UNIT1 朝食の重要性</p> <p>UNIT2 運動の重要性</p> <p>UNIT3 笑いの効果</p> <p>UNIT4 フレンチパラドックス</p> <p>UNIT5 寿司と健康</p> <p>UNIT6 納豆の効果</p> <p>UNIT7 急性アルコール中毒の危険性</p> <p>UNIT8 無呼吸症候群の危険性</p> <p>UNIT9 睡眠障害</p> <p>UNIT10 ダークチョコレートの効果</p> <p>UNIT11 加工食品の問題点</p> <p>UNIT12 遺伝子組み換え食品の危険性</p> <p>UNIT13 アレルギーとは？</p>						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
<p>予習を前提に、</p> <p>1) 内容確認 2) 解答 3) 音読 4) 暗記 5) 小テストなどを、各章や補充問題の内容に応じて行う。</p>						
主テキスト・参考文献 『Better Health for Every Day－毎日の健康に学ぶ大学総合英語』 西原俊明ほか著（金星堂）						
評価方法						
平常点（予習状況、小テスト、復習テストなど）10%、定期試験 90%						

領 域	基礎分野 科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解	開講時期	2年 後期			
科目名	英語講読	単位数 (時間数)	2 単位 15 時間／45 時間			
講 師	非常勤講師					
授業内容（概要）						
<p>〈目的〉 医療及び看護の専門分野の英語文献資料を読み解く英語力を養う。</p> <p>〈目標〉 医学関連分野の語彙力の向上を図る。</p> <p>〈内 容〉</p> <p>1 医学用語 To develop accessible medical English knowledge Became familiar with medical English through vocabulary building and other activities</p> <p>2. English medical vocabulary Content: Week1 : orientation Week2: Reading assignment #1/blog report writing Week3: Reading assignment #2/blog report writing Week4: Reading assignment #3/blog report writing Week5: Reading assignment #4/blog report writing Week6: Reading assignment #5/blog report writing Week7: Reading assignment #6/blog report writing</p>						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
Individual work						
テキスト・参考文献						
<ul style="list-style-type: none"> — all classes are conducted in English (全ての講義は英語で行います) — a good “Learner’s” dictionary is a must for all students (辞書が全ての学生に必要です) — a USB flash drive (USB フラッシュメモリが1人につき1つ必要です。講義開始時までに各自用意しておくこと) 						
評価方法						
Report , weekly practical progress (レポート提出、毎週英語力がきちんと向上しているかどうかを評価)						

領域	基礎分野 科学的思考の基盤・人間と生活、社会の理解	開講時期	1年 前期
科目名	情報科学	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講 師	非常勤講師		

授業内容（概要）

科目目的：情報の活用能力の向上を目指して、情報の理論とコンピューターの実際を学ぶ。

科目目標：情報科学の初步的理論を学び医療における情報（特にプライバシーに関する）取扱いにおける責任・理論を理解し、実践を通して「情報処理」能力を取得する。

学習項目	授業内容	時間	他科目との関連
情報科学の初步的理論	1. 情報の定義と特徴 2. 情報化社会	1 1	論理学や教育学と関連し、科学的思考の実践能力を身につける。
保健医療における情報	1. 保健医療と情報 2. 看護と情報 3. 医療における情報システム	2 2 2	全ての学習法（検索や情報処理）の基盤となる。 基礎看護学での看護過程や看護研究での活用に発展させていく。
情報と倫理	1. 情報倫理と医療倫理 2. 患者の権利と情報 3. 個人情報の保護	2 2 2	臨床における情報システムの役割について理解する。 全ての科目におけるデータ収集や分析、成果の報告など情報機器の活用ができるようになる。
情報処理演習	1. 文書作成 2. 表計算演習 3. 情報発信 4. データ収集・解析 5. 医療情報システム	4 4 2 4 2	

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

講義、演習

コンピューターの基本操作は確認程度で、実践的に情報処理と統計を簡単な例や調査・研究をしながら、自分でできるようにする。又、今後、カルテや生活全般での個人情報やプライバシー保護などの基本規範も身につける。今後の自らの学生生活と生涯学習の基盤となるので、積極的に反復練習や発表準備をしていくようにする。

主テキスト

系統看護学講座 別巻「看護情報学」（医学書院）

参考文献

なし

評価方法

定期試験 80%、演習・課題 20%

領域	基礎分野 科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	開講時期	1年通年
科目名	保健体育	単位数(時間数)	1単位 30時間
講 師	非常勤講師		

授業の内容（概要）

科目目的：運動による健康増進の効果を理論的に学び、その必要性を理解する。さらに、体力の維持・向上を目指し、協調性・責任感などを養う。

科目目標：運動と健康増進の効果を理論的に学ぶ。スポーツやレクレーションを通し、自己の健康と臨床能力に活かす基本を身につける。

	内 容	形 式	備考
1回目	オリエンテーション・健康づくり概論① (健康日本21)	講義(多目的室)	
2回目	身体機能測定演習	演習(多目的室)	Inbody、体力測定
3回目	ウォーキング演習	演習(多目的室)	
4回目	ストレッチング演習	演習(河川敷)	
5回目	筋力トレーニング演習	演習(多目的室)	
6回目	軽運動演習(卓球)	演習(多目的室)	
7回目	ヨガ演習①パワーヨガ	演習(講堂)	月曜日午後
8回目	ヨガ演習②ストレスマネジメント	演習(講堂)	月曜日午後
9回目	ヨガ演習③ストレスマネジメント	演習(講堂)	月曜日午後
10回目	エクササイズ演習①	演習(講堂)	月曜日午後
11回目	軽運動演習(ミニバレー)	演習(講堂)	月曜日午後
12回目	健康づくり概論② (生活習慣病予防対策・介護予防対策)	講義 (多目的室)	
13回目	ウォーキング・スロージョギング演習	演習(河川敷)	
14回目	健康づくり概論③(認知症予防対策)	講義(多目的室)	
15回目	まとめ	多目的室	

授業の進め方(教授方法、教材、教具など)

講義および実技(種目によっては学外で実施予定)

テキスト・参考文献

なし 必要に応じて資料配布

評価方法

出席(受講)状況、提出物によって総合的に評価を行う。

授業科目	解剖生理学Ⅰ 人体の概要、栄養の消化と吸収、呼吸と血液の働き、血液の循環とその調節						
開講時期	1年次前期	単位	1単位	時間	30時間		
目標	1. 人体を構成する細胞、組織、器官のしくみを知り、人間がもっている生命維持機能についての概要がわかる。 2. 酸素の取り込み、需要、供給における呼吸と血液の構造と機能を学び、生命維持における呼吸の意義がわかる。 3. 循環の構造と機能を学び、生命維持における循環の意義がわかる。 4. 造血や止血の機能を学び、生命維持における血液の役割がわかる。						
時間	教育内容			担当			
30	【第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識】 1. 人体とはどのようなものか 人体の階層性、自然界の人間の位置、社会の中の人体 2. 人体の素材としての細胞・組織 細胞の構造、細胞を構成する物質、細胞膜、細胞の増殖と染色体、組織 3. 構造と機能からみた人体 構造としての人体、機能としての人体、体液とホメオスタシス 4. 解剖学用語の概念 【第3章 呼吸と血液の働き】 1. 呼吸と呼吸の働き 1) 呼吸器系の構造 ①呼吸器の構成 ②上気道 ③下気道と肺 ④胸膜・縦隔 2. 呼吸のはたらき 1) 内呼吸と外呼吸 2) 呼吸器と呼吸運動 3) 呼吸器量 4) ガス交換とガスの運搬 5) 肺の循環と血流 6) 呼吸運動の調節 7) 呼吸器系と病態生理 3. 血液 1) 血液の組成と機能 2) 赤血球 3) 白血球 4) 血小板 5) 血漿タンパク質と赤血球沈降 6) 血液の凝固と纖維素溶解 7) 血液型 【第4章 血液の循環とその調節】 1. 循環器系の構成 1) 循環器系の役割 2) 体循環と肺循環 3) 門脈系 2. 心臓の構造 1) 心臓の位置 2) 心臓の4つの部屋と4つの弁 3) 心臓壁 4) 心臓の血管と神経 3. 心臓の拍出機能 1) 心臓の興奮と伝達 2) 心電図 3) 心臓の収縮 4. 末梢循環系の構造 1) 血管の構造 2) 肺循環の血管 3) 全身の動脈 5. 血液の循環の調節 1) 血圧 2) 血液の循環 3) 血圧・血液量の調節 4) 微小循環 6. リンパとリンパ管						
評価	筆記試験 100%						
参考文献	1. 系統看護学講座 専門基礎1 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 2. 人体の構造と機能 第3版 エレインN.マリープ著 医学書院						

授業科目	解剖生理学Ⅱ 情報の受容と処理、内部機能の調節、消化吸収、体液調節						
開講時期	1年次前期	単位	1単位	時間	30時間		
目標	1. 全身を統合支配する脳の構造と機能について学ぶ。 2. 生体内外の環境の変化に対する諸臓器の調節機能の構造と機能について理解する。 3. 栄養の摂取から消化・吸収・代謝・排泄過程にたずさわる器官の構造と機能を学び、生命維持における栄養摂取と排泄の意義がわかる。 4. 人間の排泄過程にたずさわる器官の構造と機能を学び、生命維持における排泄の意義がわかる。						
時間	教育内容			担当			
30	【第8章 情報の受容と処理】 1. 神経系の構造と機能 2. 脊髄と脳 3. 脊髄神経と脳神経 4. 脳の高次機能 5. 運動機能と下行伝導路 6. 感覚機能と上行伝導路 【第6章 内臓機能の調節】 4. 自律神経による調節 1) 自律神経の機能 2) 自律神経の構造 3) 自律神経の神経伝達物質と受容体 5. 内分泌系による調節 1) 内分泌とホルモン 2) ホルモンの化学構造と作用機序 6. 全身の内分泌腺と内分泌細胞 1) 視床下部一下垂体系 2) 甲状腺と副甲状腺 3) 腺臓 4) 副腎 5) 性腺 6) その他 7. ホルモン分泌の調節 1) 神経性調節 2) 物質の血中濃度による自己調節 3) 促進・抑制ホルモンによる調節 4) 負のフィードバック 5) 正のフィードバック 8. ホルモンによる調節の実際 1) ホルモンによる糖代謝の調節 2) ホルモンによるカルシウム代謝の調節 3) ストレスとホルモン 4) 乳房の発達と乳汁分泌 5) 高血圧をきたすホルモン 【第2章 栄養の消化と吸収】 5. 栄養の消化と吸収 1) 口、咽頭、食道の構造と機能、 2) 腹部消化管の構造と機能 3) 腎臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4) 腹膜 【第5章 体液の調節と尿の生成】 1. 腎臓の構造と機能 1) 腎臓の構造と機能 2) 糸球体の構造と機能 3) 尿細管の構造と機能 4) 傍糸球体装置 5) クリアランスと糸球体濾過量 6) 腎臓から分泌される生理 2. 排尿路の構造と機能 1) 排尿路の構造 2) 尿の貯蔵と排尿 3. 体液の調節 1) 水の出納 2) 脱水 3) 電解質の異常 4) 酸塩基平衡						
評価	筆記試験 100%						
参考文献	1. 系統看護学講座 専門基礎1 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授業科目	解剖生理学III 身体の支持と運動、防御、生殖・発生と老化のしくみ				
開講時期	1年次前期	単位	1単位	時間	30時間
目標	1. 運動をつかさどる臓器の構造、機能について学び、メカニズムと日常生活における役割について理解する。 2. 感覚をつかさどる器官の構造、機能について学び、メカニズムと日常生活における役割を学ぶ。 2. 侵入してきた外敵に対する生体防御機構のしくみを理解する。 3. 次の世代の個体を生み出して種を維持する生殖の構造と機能について学ぶ。 4. 体表からみた人体の構造について学ぶ。				
時間	教 育 内 容				
30	【第7章 からだの支持と運動】 1. 骨格とは 1) 人体の骨格 2) 骨の形態と構造 3) 骨の組織と組成 4) 骨の発生と成長 5) 骨の生理的な機能 2. 骨の連結 1) 関節 2) 不動性の連結 3. 骨格筋 1) 骨格筋の構造 2) 骨格筋の作用 3) 骨格筋の神経支配 4. 体幹の骨格と筋 1) 脊柱 2) 胸隔 3) 背部の筋 4) 胸部の筋 5) 腹部の筋 5. 上肢の骨格と筋 1) 上肢帯の骨格 2) 自由上肢の骨格 3) 上肢体の筋群 4) 上肢の筋群 5) 前腕の筋群 6) 手の筋群 7) 上肢の運動 6. 下肢の骨格と筋 1) 下肢帯と骨盤 2) 自由下肢の骨格 3) 下肢帯の筋群 4) 大腿の筋群 5) 下腿の筋 6) 足の筋 7) 下肢の運動 7. 頭頸部の骨格と筋 1) 神經頭蓋(脳頭蓋) 2) 内臓頭蓋(顔面頭蓋) 3) 頭部の筋 4) 頸部の筋 8. 筋の収縮 1) 骨格筋の収縮機序 2) 骨格筋収縮の種類と特性 3) 負随意筋の収縮の特徴 【第8章 情報の受容と処理】 7. 眼の構造と機能 8. 耳の構造と感覚・平衡覚 9. 味覚と嗅覚 10. 痛覚 11. 耳の構造と聴覚・平衡覚 12. 味覚と嗅覚 【第9章 外部環境からの防御】 1. 皮膚の構造と機能 2. 生体の防御機構 (1) 非特異的防御機構 皮膚・粘膜における防御機構、食作用・細胞傷害物質による防御 (2) 特異的防御機構：免疫 (3) 生体防御の関連臓器 3. 体温とその調節 (1) 热の出納 (2) 体温の分布と測定 (3) 体温調節 (4) 発熱 (5) 高体温、低体温 【第10章 生殖・発生と老化のしくみ】 1. 男性生殖器 2. 女性生殖器 3. 受精と胎児の発生 4. 成長と老化 【第11章 体表からみた人体の構造】 1. 体表から触知できる骨格部分 2. 体表から触知できる大きな筋 3. 体表から触知できる動脈 24. 体表から触知できる静脈				
評価	筆記試験 100%				
参考文献	1. 統看護学講座 専門基礎1 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院				

科目名			区分	
形態機能学			基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	専任教員(※1)

<授業概要>		授業計画	備考
生命維持と生活行動の基礎となる人体の構造と機能を理解する。また、フィジカルアセスメント等における観察力や判断力の基礎となる知識を得る。		1 息をする・呼吸器系 :呼吸器の解剖とガス交換の仕組みを理解する	講義
		2 循環 :心臓の構造と働き・血流と血圧維持について理解する	講義 小テスト
		3 食べる・消化器系 :消化器系の構造と栄養摂取について理解する	講義 小テスト
		4 排泄・腎、泌尿器 :腎・泌尿器系の構造と排泄機能について理解する	講義 小テスト
		5 神経系 :神経系の構造と神経伝達について理解する	講義 小テスト
		6 感覚器 :五感・感覚・刺激及び皮膚・内臓感覚の仕組みについて理解する	講義 小テスト
		7 動く・筋、骨格系 :運動に関わる器官の構造、機能・エネルギー代謝について理解する	講義 小テスト
		8 産み育てる・生殖器 :生殖器の機能・種族保存について理解する	講義 小テスト
		9 ホメオスタシス① 神経系による恒常性維持について理解する	講義 小テスト
		10 ホメオスタシス② 内分泌系による恒常性維持について理解する	講義 小テスト
		11 ホメオスタシス③ 免疫系による恒常性維持について理解する	講義 小テスト
		12 1. ホメオスタシスについて関連図を作成する ①発熱②尿量減少③呼吸困難(アシドーシス含める)	小テスト グループワーク
		13 2. 創傷治癒と感染、免疫機能 3. 栄養吸収について、関連図を作成する	グループワーク
		14 4. 心不全の病態 5. 噫下機能について関連図を作成する	グループワーク
		15 グループワーク発表・まとめ	プレゼンテーション 講義
成績評価			
小テスト(20%)・終講筆記試験(60%)・グループワーク、プレゼンテーションの参加度(20%)			

※1 看護師として病院で実務経験12年以上

領域	専門基礎分野 人体の構造と機能	開講時期	1年 後期
科目名	臨床生化学	単位数 (時間数)	1 単位 30 時間
講 師	非常勤講師		

授業内容（概要）

生体における生命現象を化学的に理解することは、医療にとって欠かすことができない基礎知識である。

- ・人の体がどのような化合物から成り立っていて、それらの化合物がどのようにつくれられ、こわされて、生体の恒常性が保たれているかを学ぶ。病気の場合、これらのしくみにどのような変化が見られるのかを化学的に解説する。
- ・体は遺伝子という設計図に基づいて作られており、この仕組みについて学ぶ。

1 生化学を学ぶための基礎知識 (化学の基礎知識、細胞の構造と機能)

2 糖質 (糖質の種類、構造と性質)

3 脂質 (脂質の種類と役割、脂質)

4 タンパク質 (アミノ酸、タンパク質の構造と機能、タンパク質の分類)

5 核酸 (構造と機能)、水と無機質

6 代謝のあらまし、酵素 (酵素に関する基礎、アイソザイムなど)

7 ビタミンと補酵素 (ビタミンの種類と生理作用、ビタミン欠乏症)

8 糖質代謝 (グルコースの分解、糖新生、グリコーゲンの代謝)

9 脂質代謝 (脂肪酸、ケトン体、コレステロールなどの分解と生合成)

10 タンパク質代謝 (尿素回路など)、核酸代謝

11 代謝の異常 (骨粗鬆症、糖尿病)

12 (脂質異常症、高尿酸血症・痛風)

13 遺伝情報 (DNA の複製、転写のしくみ、翻訳)

14 (DNA の欠損と修復)、先天性代謝異常

構成する物質
生体を

生体内の物質代謝

遺伝

授業の進め方(教授方法、教材、教具など)

講義 講義の中で視聴覚教材(イラスト、図表、ビデオなど)を活用し、プリントを配布する

主テキスト

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 (2) 生化学 (医学書院)

参考文献

なし

評価方法

定期試験成績 100%で評価する。

領域	専門基礎分野 人体の構造と機能	開講時期	1年 後期
科目名	栄養学	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間／30 時間
講 師	非常勤講師		

授業内容（概要）

人間栄養学と看護

- 1 保健・医療における栄養学
- 2 看護と栄養

栄養素の種類とはたらき

- 1 糖質、脂質、たんぱく質
- 2 ビタミン、ミネラル、水

食物の消化と栄養素の吸収・代謝

- 1 食物の消化、栄養素の吸収
- 2 血漿成分と栄養素
- 3 栄養素の代謝

エネルギー代謝

- 1 食品のエネルギー
- 2 体内のエネルギー
- 3 エネルギー消費

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

講義式を主として行います。

主テキスト

- ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（3） 栄養学 （医学書院）

参考文献

なし

評価方法

試験 100%による評価

領域	専門基礎分野 人体の構造と機能	開講時期	1年 後期
科目名	栄養学	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間／30 時間
講 師	非常勤講師		

授業内容（概要）

臨床栄養として

1. 栄養状態の評価・判定、病院食栄養補給法
2. 循環器疾患、消化器疾患、食物アレルギー疾患の食事療法
3. 腎臓疾患、血液疾患
4. 小児疾患、妊娠高血圧症候群、骨粗鬆症の食事療法
5. 術前・術後・在宅療法の食事療法
6. 高齢者の栄養管理の基本

医療保険・診療報酬として

1. 医療保険・診療報酬制度の仕組みと食事

チーム医療と食事・健康づくりとして

1. N S T活動
2. 日本人の食事摂取基準、栄養ケアマネジメント

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

講義式を主にして、内容によりパワーポイントを使用

主テキスト

- ・系統看護学講座 別巻⑤ 栄養食事療法（医学書院）
- ・糖尿病食事療法のための食品交換表

参考文献

なし

評価方法

試験 100%による評価

領 域	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	開講時期	1年 前期			
科目名	病理学総論	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間			
講 師	非常勤講師					
授業内容（概要）						
<p>1 : 病理学と病因 病理学とは何か。病期疾病の原因の分類</p> <p>2 : 先天異常 遺伝子異常、染色体異常</p> <p>3 : 感染症 炎症局所の基本的变化、感染症による宿主反応、性感染症</p> <p>4 : 代謝障害 退行性病変や糖尿病などの糖代謝異常、脂質代謝異常や蛋白代謝異常</p> <p>5 : 循環障害 虚血と梗塞、充血とうっ血、出血と出血傾向、心不全、肝硬変症の側副循環、DIC、ショック</p> <p>6 : 腫瘍 腫瘍とは、腫瘍の種類と命名法、腫瘍の形態と発育様式、転移と浸潤 腫瘍の原因、発生機序、疫学</p> <p>7 : 免疫 I型～V型のアレルギー性疾患、自己免疫疾患</p> <p>8 : 老化と死 個体の加齢と老化、個体の死</p>						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
パワーポイント、ホワイトボードを用いて授業を進める。						
主テキスト						
系統看護学講座 病理学 医学書院						
参考文献						
評価方法						
試験 100%						

領域	専門基礎分野	開講時期	1年 後期
科目名	病理学 I (呼吸器・循環器)	単位数 (時間数)	1単位 循環器：15時間／30時間 呼吸器：15時間／30時間
講 師	非常勤講師		

授業内容（概要）

<目的>

- 呼吸器系の疾患に関して、病態、検査、治療、予後を理解し、看護の展開に活かすことができる。
- 循環器系の疾患に関して、病態、検査、治療、予後を理解し、看護の展開に活かすことができる。

<目標>

- 呼吸器系の基礎知識（構造と機能、症状と病態生理）と主な疾病の病態、検査、治療、予後を理解する。
- 循環器系の基礎知識（構造と機能、症状と病態生理）と主な疾病の病態、検査、治療、予後を理解する。
- 習得した呼吸器系・循環器系の知識や技術を臨地実習や臨床での看護の展開に活かす。

<内容>

学習項目	授業内容
呼吸器疾患の症状と病態生理 検査と治療・処置	<ol style="list-style-type: none"> 喀痰、血痰、咯血、咳嗽、胸痛、等 喀痰検査、胸水検査、X線検査、等 感染症
呼吸器疾患	<ol style="list-style-type: none"> 免疫的機序が関与した疾患 閉塞性肺疾患 拘束性肺疾患 呼吸調節に関する疾患、等
腫瘍 腫瘍の治療	<ol style="list-style-type: none"> 肺腫瘍、縦隔腫瘍 放射線療法 化学療法と副作用
循環器系の症状と病態生理 検査と治療・処置	<ol style="list-style-type: none"> 胸痛、動悸、浮腫、呼吸困難、頻呼吸、チアノーゼ、等 心臓カテーテル法、運動負荷試験、動脈血ガス、等 心電図、心エコー 不整脈、不整脈治療、抗不整脈薬の適応と主な副作用 狭心症、狭心症の検査と治療
循環器疾患	<ol style="list-style-type: none"> 心筋梗塞の症状、病態生理、検査、等 高血圧症、弁膜症、心筋疾患 心不全、動脈系疾患、静脈系疾患

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

講義（パワーポイントとプリントを用いる）

主テキスト

専門分野Ⅱ 成人看護学講座[2] 呼吸器 医学書院

専門分野Ⅱ 成人看護学講座[3] 循環器 医学書院

参考文献

なし

評価方法

1 筆記試験 100%

領域	専門基礎分野	開講時期	1年 後期
科目名	病理学Ⅱ（消化器系）	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間／30 時間
講 師	非常勤講師		

授業内容（概要）

＜科目目的＞

1. 消化器系（消化管、肝・胆・膵）の各疾患に関する病態、検査、治療、予後を理解し看護の展開に活かすことができる。

＜科目目標＞

1. 消化器系の基礎知識（構造と機能、症状と病態生理）と主な疾病の病態、検査、治療、予後を理解する。
2. 習得した消化器系の知識や技術を臨地実習や臨床での看護の展開に活かす。

＜内容＞

学習項目	授業内容
1 消化器疾患の症状と病態生理	1. 吐き気、嘔吐、腹痛、吐血、等
2 検査と治療・処置	1. 粪便検査、肝機能検査、超音波検査、等
3 消化器疾患	1. 食道静脈瘤、胃食道逆流症、等 2. 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃がん 3. 胃切除後と術後の合併、等 4. 結腸がん、直腸がん、直腸切除、等 5. 肝炎、肝硬変、肝がん、胆石、等

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

講義（パワーポイントとプリントを用いる）

主テキスト

- ・専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 （医学書院）

参考文献

なし

評価方法

- ・筆記試験 100%

領域	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	開講時期	1年 後期																				
科目名	病理学Ⅱ (内分泌・代謝)	単位数 (時間数)	1単位 15時間／30時間																				
講 師	非常勤講師																						
授業内容（概要）																							
<h3>代謝疾患</h3> <p>代謝疾患は生体を構成する物質の同化や異化の過程に異常をきたす疾患である。代謝調節の基礎知識を学ぶと共に、以下の各論について、実践に即した内容にそつて講義を行う。</p> <table> <tr> <td>1) 糖尿病</td> <td>2) 痛風</td> </tr> <tr> <td>(1) 定義および診断基準</td> <td>(1) 高尿酸血清の原因</td> </tr> <tr> <td>(2) 成因に基づく病型</td> <td>(2) 尿酸塩結晶の病態生理</td> </tr> <tr> <td>(3) 合併症と発症機序</td> <td>(3) 治療のポイント</td> </tr> <tr> <td>(4) 治療方針とコントロール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3) 脂質代謝異常</td> <td>4) メタボリック症候群</td> </tr> <tr> <td>(1) 血中脂質の存在様式</td> <td>(1) 基礎概念</td> </tr> <tr> <td>(2) リポ蛋白の体内代謝</td> <td>(2) 特定保健指導対象者</td> </tr> <tr> <td>(3) 高脂血症の分類</td> <td>(3) 脂肪細胞とインスリン抵抗</td> </tr> <tr> <td>(4) 食事と薬物療法</td> <td>(4) 生活習慣変容のための原則</td> </tr> </table>				1) 糖尿病	2) 痛風	(1) 定義および診断基準	(1) 高尿酸血清の原因	(2) 成因に基づく病型	(2) 尿酸塩結晶の病態生理	(3) 合併症と発症機序	(3) 治療のポイント	(4) 治療方針とコントロール		3) 脂質代謝異常	4) メタボリック症候群	(1) 血中脂質の存在様式	(1) 基礎概念	(2) リポ蛋白の体内代謝	(2) 特定保健指導対象者	(3) 高脂血症の分類	(3) 脂肪細胞とインスリン抵抗	(4) 食事と薬物療法	(4) 生活習慣変容のための原則
1) 糖尿病	2) 痛風																						
(1) 定義および診断基準	(1) 高尿酸血清の原因																						
(2) 成因に基づく病型	(2) 尿酸塩結晶の病態生理																						
(3) 合併症と発症機序	(3) 治療のポイント																						
(4) 治療方針とコントロール																							
3) 脂質代謝異常	4) メタボリック症候群																						
(1) 血中脂質の存在様式	(1) 基礎概念																						
(2) リポ蛋白の体内代謝	(2) 特定保健指導対象者																						
(3) 高脂血症の分類	(3) 脂肪細胞とインスリン抵抗																						
(4) 食事と薬物療法	(4) 生活習慣変容のための原則																						
<h3>内分泌疾患</h3> <p>ホルモンは内分泌細胞で産出され、血流を介して標的組織や臓器に作用する情報伝達物質である。</p> <p>ホルモンの分泌調節と機能亢進、低下について、基礎知識を学ぶと共に以下の各論について概説する。</p> <p>1) 下垂体疾患 2) 甲状腺疾患 3) 副腎疾患 4) 腺内分泌</p>																							
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）																							
プリントによる講義形式																							
主テキスト																							
専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝（医学書院）																							
参考文献																							
なし																							
評価方法																							
期末テスト（筆記）100%																							

領 域	専門基礎分野	開講時期	1年 後期
科目名	病理学III（性・生殖器）	単位数 (時間数)	1単位 13／30時間
講 師	非常勤講師		

授業内容（概要）

科目目的

1 生殖器の疾患に関して、病態、検査、治療、予後を理解し、看護の展開にいかすことができる。

科目目標

- 1 女性生殖器の基礎知識（構造と機能、症状と病態生理）と主な疾病の病態、検査、治療、予後を理解する。
- 2 習得した生殖器系の知識や技術を臨地実習や臨床での看護の展開に活かす

授業内容

- 1 女性生殖器疾患の症状と病態生理
 - 1) 不正出血、帶下、疼痛、等
- 2 女性生殖器疾患
 - 1) 外陰の疾患、腫瘍
 - 2) 子宮の良性疾患、卵管の疾患
 - 3) 卵巣の良性疾患、月経異常・月経随伴症状、等
 - 4) 性感染症
 - 5) 不妊症、乳腺疾患（乳がん、乳腺症）
 - 6) 子宮癌（子宮頸癌、子宮体癌）
 - 7) 卵巣癌

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

講義（パワーポイントとプリントを用いる）

主テキスト

- ・系統看護学講座 成人看護学[9]「女性生殖器」（医学書院）

参考文献

なし

評価方法

筆記試験 100%

領 域	専門基礎分野	開講時期	1年 後期
科目名	病理学III（腎・泌尿器）	単位数 (時間数)	1単位 30時間のうち 18時間
講 師	非常勤講師		

授業内容（概要）

- 1 腎臓の構造と機能
 - 1) 腎臓の構造
 - 2) 腎臓の機能
- 2 腎疾患で生じる主な症状
 - 1) 尿の異常
 - 2) 循環器系の症状
 - 3) 血液の異常
 - 4) 血液系の症状
 - 5) その他の症状
- 3 腎疾患の主な検査と治療法
 - 1) 診察の方法
 - 2) 検査の種類と方法
 - 3) 診察の方法
 - 4) 腎疾患の主な診察法
- 4 主な腎疾患の診察
 - 1) 腎不全
 - 2) 一次性糸球体腎炎
 - 3) 二次性腎疾患
 - 4) 尿細管性腎疾患
 - 5) 尿路感染症
 - 6) 尿路結石
 - 7) 尿路閉塞
 - 8) 腎腫瘍
 - 9) 囊胞性疾患
- 5 泌尿器の構造と機能
 - 1) 腎・泌尿器の構造
 - 2) 腎・泌尿器の機能
- 6 泌尿器疾患で生じる主な症状
 - 1) 排尿異常
 - 2) 尿量の異常
 - 3) 尿の性状の異常
 - 4) 疼痛
 - 5) 発熱
 - 6) その他の症状
- 7 泌尿器疾患の主な検査と治療法
 - 1) 診察の方法
 - 2) 検査の方法
 - 3) 診断の流れ
 - 4) 治療の方法
- 8 主な泌尿器疾患の診察
 - 1) 腎臓及び尿管の疾患
 - 2) 膀胱の疾患
 - 3) 尿道の疾患
 - 4) 陰茎および陰嚢の疾患
 - 5) 前立腺および精嚢の疾患
 - 6) 精巣、精巣上体および精索の疾患
 - 7) 性分化異常
 - 8) 性機能障害
 - 9) 男子更年期障害
 - 10) 副腎の疾患

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

講義（教科書が主、時々パワーポイントを使用）

主テキスト

・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎泌尿器（医学書院）

参考文献

なし

評価方法

筆記試験 100%

領域	専門基礎分野	開講時期	2学年 前期			
科目名	病理学IV (感覚器: 眼科)	単位数 (時間数)	1単位 30時間のうち6時間			
講 師	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
（目的）						
感覚器系の疾患に関して、解剖病態、検査、治療、予後を理解し、看護の展開に活かす。						
（内 容）						
1 眼の構造と研解 症状とその病態生理、検査と治療						
2 各種眼疾患						
3 患者の看護 症状、診察、検査、手術、ロービジョン						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
講義、パワーポイント、一部DVD使用						
主テキスト						
系統看護学講座 成人看護学【13】 眼（医学書院）						
参考文献						
なし						
評価方法						
筆記試験 100%						

領 域	専門基礎分野	開講時期	2学年 前期
科目名	病理学IV（救急・災害）	単位数 (時間数)	1単位 9時間／30時間
講 師	非常勤講師		

授業の内容（概要）

- 1 救急・急変看護の基本
- 2 ショック、意識障害、けいれん、失神
麻痺、頭痛、めまい、胸痛
- 3 呼吸困難、動悸、腹痛、吐血、下血
嘔吐、発熱、腰背部痛、中毒
- 4 頭部外傷、脊椎・脊髄損傷、胸部外傷
腹部外傷、骨盤外傷、四肢外傷、熱傷

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

パワーポイントを使用した講義

主テキスト

主テキスト
「ゼロからわかる救急・急変看護」（成美堂出版）

参考文献

なし

評価方法

テスト 100%にて評価

領 域	専門基礎分野	開講時期	2学年 前期
科目名	病理学IV (脳神経系)	単位数 (時間数)	1単位 13時間／30時間
講 師	非常勤講師		

授業の内容（概要）

1 脳・神経系疾患の症状と病態生理

- 1) 意識障害、高次脳機能障害、等

2 脳・神経系疾患の検査・治療・処置

- 1) 神経学的検査、脳脊髄液検査、等

3 脳疾患

- 1) 神経解剖
- 2) 脳血管障害
- 3) 脳腫瘍
- 4) 頭部外傷
- 5) 脊髄・脊椎疾患
- 6) 機能的脳神経外科
- 7) 中枢神経系の炎症性疾患、等

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

- 1 講義

主テキスト

- 1 専門分野II 成人看護学7 脳・神経 (医学書院)

参考文献

なし

評価方法

- 1. 筆記試験 100%

領域	専門基礎分野	開講時期	2学年 前期			
科目名	病理学IV (感覚器:耳鼻科)	単位数 (時間数)	1単位 30時間のうち5時間			
講 師	非常勤講師					
授業の内容(概要)						
〈目的〉 感覚器系の疾患に関して、病態、検査、治療、予後を理解し、看護の展開に活かすことができる。						
〈目標〉 耳鼻咽喉科領域の基礎知識（構造と機能、症状と病態生理）と主な疾病の病態、検査、治療、予後を理解する。						
〈内 容〉						
<p>1 聴覚・平衡感覚機能障害の症状と検査法 1) 感音性難聴、伝音性難聴、混合性難聴、等</p> <p>2 耳鼻咽喉科疾患 1) メニエール病、突発性難聴、中耳炎等</p>						
授業の進め方(教授方法、教材、教具など)						
1 講義						
主テキスト 専門分野Ⅱ 成人看護学[1-4]耳鼻咽喉科 医学書院						
参考文献 なし						
評価方法						
1. 筆記試験 100%						

領域	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	開講時期	1年 後期
科目名	病理学V (血液・造血器・アレルギー系)	単位数 (時間数)	1単位 15時間／30時間
講 師	非常勤講師		

授業内容（概要）

血液・造血器

血液は全身の細胞にエネルギーを届け、老廃物を排泄器官に送り出し、また生体防御や生体の物理的、化学的環境の調節を行なう重要な臓器である。

造血のしくみと主要な血液疾患を学ぶために以下の各論について講義する。

- 1) 造血の仕組み 2) 血球の動態と機能
- 3) 貧血
 - (1) 鉄欠乏性 (2) 再生不良性 (3) 溶血性
- 4) 白血球疾患
 - (1) 白血球の増加と減少 (2) 白血病 (3) 無顆粒球症
 - (4) ホジキンおよび非ホジキンリンパ腫
- 5) 血小板疾患
 - (1) 血小板減少性紫斑病 (2) DIC

アレルギー系

アレルギーは抗原抗体反応が過剰に作用した場合におこる。

この機序を理解するためには、免疫現象およびそれに伴う疾患の理解が必要となる。

- 1) 免疫担当細胞 2) 自己免疫疾患の発生機序 3) 薬物アレルギー
- 4) 膜原病
 - (1) 膜原病の3つの顔（病理学的、病因論的、臨床的）
 - (2) SLE (3) 血管炎症候群 (4) シエーグレン症候群
 - (5) ベーチェット病
- 5) アナフィラキシー

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

プリントによる講義形式

主テキスト

専門分野Ⅱ 成人看護学講座[4] 血液造血器（医学書院）

専門分野Ⅱ 成人看護学講座[11] アレルギー 膜原病 感染症（医学書院）

参考文献

なし

評価方法

期末テスト（筆記）100%

領 域	専門基礎分野	開講時期	1年 後期			
科目名	病理学V（運動器系）	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間／30 時間			
講 師	非常勤講師					
授業内容（概要）						
<目的>						
骨格系、筋系の疾患に関して、病態、検査、治療、予後を理解し、看護の展開に活かすことができる。						
<内容>						
1 整形外科疾患の症状とその病態生理						
1) 疼痛 2) 形態の異常						
3) 関節運動の異常						
(1)関節拘縮 (2)強直 (3)動搖関節						
4) 神経の障害						
(1)運動麻痺 (2)知覚障害						
5) 異常歩行または跛行						
6) 筋肉の障害						
2 診断・検査と治療・処置						
1) 診察・診断の流れ						
2) 検査（画像、骨密度、治療・処置）						
3) 手術療法						
4) 義肢と装具						
3 外傷性（外因性）の運動器疾患						
1) 骨折						
(1)分類 (2)病態生理 (3)症状 (4)治療 (5)各種の骨折						
2) 脱臼						
(1)脱臼とは (2)各種の脱臼						
3) 捻挫および打撲						
4) 神経の損傷						
(1)脊髄損傷 (2)末梢神経損傷						
5) 筋・腱・韌帯などの損傷						
(1)筋断裂 (2)アキレス腱断裂 (3)手指の腱断裂 (4)コンパートメント症候群						
4 内因性（非外傷性）の運動器疾患						
1) 先天性疾患						
(1)先天性筋性斜頸 (2)先天性股関節脱臼 (3)先天性内反足						
(4)骨系疾患 (5)他の先天性疾患						
2) 骨・関節の炎症性疾患						
(1)骨髓炎 (2)化膿性関節炎 (3)骨・関節結核 (4)変形性関節症						
(5)関節リウマチ (6)痛風 (7)偽関節 (8)強直性脊椎症						
(9)他のリウマチ性疾患						
3) 骨腫瘍および軟部腫瘍						
(1)良性骨腫瘍 (2)悪性骨腫瘍 (3)良性軟部腫瘍						
4) 代謝性骨疾患						
5) 筋および腱の疾患						
6) 神経の疾患						

- (1)脳性麻痺 (2)ポリオ (3)末梢性ニューロパシー
(4)進行性神経障害
7) 上肢および上肢帯の疾患
8) 脊椎の疾患
9) 下肢および下肢帯の疾患
10) 運動器不安定症

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

テキストを使用した講義

主テキスト

- ・系統看護学講座 成人看護学⑩運動器 (医学書院)

参考文献

なし

評価方法

- ・筆記試験 100%

領域	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	開講時期	1年 後期			
科目名	臨床薬理学	単位数 (時間数)	2単位 45時間			
講 師	非常勤講師					
授業内容（概要）						
<p>＜考え方＞</p> <p>疾病的治療の大きな柱のひとつとなる薬理について、臨床的側面から学習することで、看護実践に有用な薬についての知識を修得し、将来、現場での実践に役立たせる。</p> <p>＜概要＞</p> <p>薬物の特性、作用機序、副作用についての基礎的な知識を学ぶことで、薬物の作用について理解する。</p> <p>系統的に薬の作用を学ぶことで、人体の機能についても理解を深めるようにしたい。</p> <p>臨床現場で求められる安全管理で、特に薬剤は重要であるので、濃度の計算、用量についての知識を身につけるような演習も行う。又、麻薬、向精神薬等、法律的に管理が必要な薬剤もあるので、それについても理解を深めるようとする。</p>						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
教科書を用いた講義、スライドも用いることもある。						
主テキスト						
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進（2）薬理学（医学書院）						
参考文献						
なし						
評価方法						
テスト（筆記試験）100%						

領域	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	開講時期	1年 前期			
科目名	微生物学	単位数 (時間数)	1 単位 30 時間			
講 師	非常勤講師					
授業内容（概要）						
微生物に対する基礎的知識の習得、微生物の感染・発病から回復にいたるまでの仕組み、感染予防のための手段、常在細菌叢の意義などについて学ぶ。感染と発病と治療のはざまで起る様々な問題（日和見感染、院内感染など）を理解させる。また、主要な感染症についてその概要を学ぶ。						
〈一般目標〉						
微生物と疾病の関わりについての基礎知識、微生物感染によって生じる病態の理解と感染予防の重要性を認識し、看護実践の上で感染予防に必要な基礎的知識を修得する。						
〈到達目標〉						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 細菌、真菌、原虫等について、分類、形態、構造、性状および増殖様式について説明できる。 2. ウィルスの特徴、構造、増殖様式の概要について説明できる。 3. 感染成立の要因について病原体側と生体側から説明できる。 4. 感染に対する生体防御機構、とくに自然免疫と獲得免疫について説明できる。 5. 日和見感染症、菌交代症、院内感染について説明できる。 6. 消毒と滅菌の違いについて具体例を挙げて説明できる。 7. 感染症の診断法と予防の概要について説明できる。 8. 感染症の現状「新興・再興、常在感染症（感染症新法）、外来感染症など」と対策について説明できる。 9. 特殊な感染症について、その病原体、疾患名、予防対策について説明できる。 10. 感染源・感染経路からみた主要な感染症について感染経路、症状など概要を説明できる。 						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
講義：PowerPoint、液晶プロジェクターにより図式、図表などを示し、実践的な教育を実施する。						
主テキスト						
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進4 「微生物学」 第13版						
参考文献						
評価方法						
筆記試験により評価し、60点（100点満点）以上を合格とする。						

領域	専門基礎分野	開講時期	1年前期			
科目名	保健医療論Ⅰ	単位数 (時間数)	1単位 15時間			
講 師	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
<p>〈目的〉 医療の歴史と現代社会の医療について理解し、人々の健康と、これからの時代における望ましい医療の在り方を理解する。</p>						
<p>〈目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療と医療の原点を理解する。 2. 医療の歴史と医療観の変遷及び健康の概念を学ぶ。 3. 患者の立場から医療の在り方の問題を学ぶ。 4. 医療をめぐる動向を理解し、望ましい医療の在り方とテーマを学ぶ。 						
<p>〈内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医学・医療のあゆみ <ol style="list-style-type: none"> 1) 人類の誕生と文化の発達 2) 原始生活と病気・医術 3) 医療の原始的形態 4) 古代の医学 5) 中世の医学 6) 宗教医学からの脱却と医学の近代化 7) 近代医学の基礎と臨床医学の近代化 8) 近代医学の発展 9) 今後の医学、医療の動向 2 健康の概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の概念 2) 疾病 3) 生活と健康 3 医学と医療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医学と医療 2) 現代医療の本質 3) 医療の実践 						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 2. GW（討議） 3. DVD 						
テキスト・参考文献						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「現代医療論」メデカルフレンド社 						
評価方法						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験（筆記） 2. レポート 						

領域	専門基礎分野	開講時期	1年後期			
科目名	保健医療論II	単位数 (時間数)	1単位 15時間			
講 師	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
〈目的〉 医療における看護の役割を理解する。						
〈目標〉 1. 医療計画、医療サービスの推進、医療関係者の現状と今後の医療保障体制を理解する。 2. 患者の権利について歴史的変遷の中から理解する。						
〈内容〉 1 わが国の医療供給体制 1) 医療供給の現状と整備の経過 2) 医療関係者の現状と養成の実態 3) 医療保障の現状と課題 2 現代医療における諸問題 1) 医療の進歩と医の倫理 2) 医療における患者の権利 3) 病状（真実）告知 4) 脳死と臓器移植 5) 死と生命保持、安楽死、死を共有する。						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
1. 講義 2. GW（討議） 3. DVD						
テキスト・参考文献						
1. 「現代医療論」メデカルフレンド社 2. 国民衛生の動向 2017/2018						
評価方法						
1. 試験（筆記） 2. レポート						

領域	専門基礎分野	開講時期	2学年 前期			
科目名	公衆衛生学	単位数 (時間数)	1単位 15時間			
講 師	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
<p>〈目的〉 保健・医療・福祉の抱えている問題点を知り、社会に貢献する方向性・視点を理解する。</p> <p>〈目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生の概念と基本的な内容を理解する。 2 健康が環境や生活習慣と深く関連していることを理解する。 3 各種制度の現状と課題、今後の方向について学ぶ。 <p>〈内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生の意義と対象 2) 健康とは 3) 公衆衛生の歴史 4) 公衆衛生の方法 2 環境と公衆衛生 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康問題と環境 2) 食品保健 3 人口統計と公衆衛生 <ol style="list-style-type: none"> 1) 世界の人口・日本の人口 2) 人口静態統計・人口動態統計 3) 生命表（平均寿命） 4 健康と保健統計 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康指標 2) 傷病統計 5 疫学 <ol style="list-style-type: none"> 1) 疫学とは 2) 疫学調査法 3) 疫学指標 4) スクリーニング検査 6 予防と健康保持増進 <ol style="list-style-type: none"> 1) 予防と健康増進とは 2) 健康教育 3) 感染性・非感染性疾患対策 7 地域保健 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域保健法 2) 健康日本21 3) 健康増進法 8 母子保健 9 成人保健 10 高齢者保健福祉 11 精神保健福祉 12 学校保健 13 産業保健 <ol style="list-style-type: none"> 1) 職業病 14 健康危機管理・災害保健 15 國際保健 <ol style="list-style-type: none"> 1) WHO 						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
講義						
主テキスト						
新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度②公衆衛生学（メディカルフレンド社）						
参考文献						
国民衛生の動向 2018/2019						
評価方法						
試験（筆記）100%						

領域	専門基礎分野	開講時期	2学年前期
科目名	関係法規	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師	非常勤講師		

授業の内容（概要）

〈目的〉

保健・医療・福祉に関する法制度について学び、対象に必要な法の活用について理解する。

〈目標〉

- 1 医療に関するさまざまな法の仕組みを学ぶ。
- 2 保健衛生、予防衛生、環境衛生などの基本理念と法の体系を学ぶ。
- 3 看護に関連する関係法規と学習する意義について理解する。
- 4 看護を受ける人々を守る観点から法規を学ぶ。

〈内容〉

- 1 法律の概論
 - 1) 法とは
 - 2) 法律の種類など
- 2 医事法
 - 1) 保健師助産師看護師法
 - 2) 医療法
 - 3) 各種医療職資格法
 - 4) 移植臓器法など
- 3 保健衛生法
 - 1) 地域保健法
 - 2) 健康増進法
 - 3) 精神保健福祉法
 - 4) 母子保健法
 - 5) 母体保護法
 - 6) 学校保健安全法
 - 7) 感染症予防法
 - 8) 予防接種法
 - 9) 検疫法
 - 10) 食品衛生法
- 4 薬務法
 - 1) 薬事法
 - 2) 薬剤師法
 - 3) 毒物劇物取締法
 - 4) 麻薬向精神薬取締法
 - 5) 大麻取締法
 - 6) あへん法
 - 7) 覚せい剤取締法
- 5 社会保険法
 - 1) 健康保険法
 - 2) 国民健康保険法
 - 3) 高齢者の医療の確保に関する法律
 - 4) 介護保険法
- 6 福祉法
 - 1) 社会福祉法
 - 2) 生活保護法
 - 3) 児童福祉法
 - 4) 老人福祉法
 - 5) 障害者自立支援法 その他
- 7 労働法
 - 1) 労働基準法
 - 2) 労働安全衛生法
 - 3) 労働者災害補償保険法 その他
- 8 社会基盤整備に関する法
 - 1) 個人情報保護法 その他
- 9 環境法
 - 1) 環境基本法
 - 2) 廃棄物処理法 その他
- 10 看護活動と医療機関

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

1 講義

主テキスト

1 系統看護学講座 専門基礎分野 10 健康支援と社会保障制度 4 看護関係法令（医学書院）

参考文献

なし

評価方法

1 試験（筆記） 100%

領域	専門基礎分野	開講時期	2学年 前期			
科目名	社会福祉	単位数 (時間数)	1単位 30時間			
講 師	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
<p>〈目的〉 生活者的人権について考え、看護を必要とする人々の生活を支える過程と社会資源の活用について学ぶ。</p> <p>〈目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉・社会保障の目的と機能及び歴史について学ぶ。 2 社会福祉の実践方法、社会資源の活用方法を理解する。 3 高齢者、小児、障害者などのライフサイクルと障害に応じた諸制度について学ぶ。 <p>〈内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉・社会保障概論 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉の考え方 2) 生活者の健康と福祉 <ol style="list-style-type: none"> (1)生活者の基盤と社会保障 (2)ライフスタイルと社会福祉の思想 3) 社会福祉諸法の基本理念と施策体系 <ol style="list-style-type: none"> (1)福祉施策の基本的考え方 (2)高齢者福祉の現状 4) 社会保障 <ol style="list-style-type: none"> (1)社会保障の理念 (2)各種保険制度 (3)公的扶助 2 看護と社会福祉・社会保障 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健医療福祉と看護の接点 <ol style="list-style-type: none"> (1)保健医療福祉にかかる考え方の変化 (2)保健医療福祉行政 2) 社会福祉・社会保障をふまえた看護活動の目的・対象 3) 社会福祉・社会保障をふまえた看護活動の展開方法 3 看護活動実践例と社会福祉・社会保障 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院における看護活動例と社会福祉・社会保障 2) 地域看護活動例と社会福祉・社会保障 3) 行政における看護活動例と社会福祉・社会保障 4 これからの看護と社会福祉 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉・社会保障をふまえた看護活動のさらなる実践 						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
1 講義						
主テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会福祉（医学書院）						
参考文献 なし						
評価方法						
1 試験（筆記・技術）100%						

科目名		区分	
看護学概論		基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数(単位数)	授業形態
1年次	(前期)・後期・通年	30 (1)	(講義)・(演習)・実習
専任教員(※1)			

<授業概要>

- ・3年間の学習のスタートであり、すべての科目の基礎となる科目である。そのため、看護の対象である「人間」と「健康」の概念及び「看護」の役割と責任の理解を目指す。
- ・専門学校で必要な「読む、考える、伝える」、課題の提出期限を守る、正しい授業態度などの学習姿勢を習慣づけられるよう意図して構成している。

<授業目標(GIO)>

- ・看護とは何かを多面的に学び、保健医療福祉における看護の位置づけと専門性について理解する。

<行動目標(SBO)>

- ・看護の対象である「人間」と「健康」の概念を理解できる。
- ・看護職の変遷と制度の成り立ちを述べることができる。
- ・看護の専門職業人として必要な倫理的態度を考えることができる。
- ・看護を取り巻く環境を理解し、看護職を意識した行動がとれる。

<授業の留意点>

- ・テキストの暗記でなく、「看護」に必要な知識をイメージできるように課題を予習・復習に活かす。
- ・並行している解剖生理学や基礎看護技術と関連させられるように想起を促すので、予習・復習に活かす。

<教科書>

「看護学概論」医学書院

「やさしく学ぶ看護理論」日総研

<参考書>

授業計画		備考
1 第1章 学科カリキュラムの構成と教授方法の特性及び自己学習姿勢をガイダンスする。		講義
2 第2章 対象の生物学的側面、心理・社会的側面を事例を用いて理解する。		講義・演習
3 第2章 対象の暮らし・生活と家族の必要性を事例を用いて理解する。		講義・演習 (課題提示)
4 第2章 小テストでテキストを再解説し、「人間」理解の定着と深まりを図る。		小テスト
5 第3章 健康の定義とプライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションの背景と意義を学ぶ。		講義
6 第3章 障害分類、ノーマライゼーションとQOL の成り立ちを知り、「健康」を考える。		講義
7 第3章 国民の健康状態や人口動態など統計資料を理解し、保健と医療の関連を学ぶ。		講義
8 第4章 社会の動きで、看護職の位置づけや教育制度が変わってきたことを理解する。		講義
9 第5章 職業倫理として、倫理原則とジレンマや医療専門職の倫理規定を学ぶ。		講義 (課題提示)
10 第5章 看護職として尊厳死、安楽死に直面することを想定し多面的に意味を考える。		講義・演習
11 第6章 チーム医療や看護制度・診療報酬制度など、看護職の役割や責任を理解する。		講義・演習
12 第1章 帰納法・演繹法により、科学的な看護実践に向けた理論の意義と活用を学ぶ。		講義 (課題提示)
13 トラベルピーの理論とロイの概念モデルの事例を学び、理論の意義と活用を理解する。		講義・演習
14 第7章 看護活動の場を理解するために、国連の取り組みや災害看護を学ぶ。		講義・演習 (課題提示)
15 授業で学んだ用語の定義、単元間のつながりや根拠の理解の定着と深まりを図る。		小テスト
16 本試験		
	成績評価	
	筆記試験100%	

※1 看護師として病院で実務経験13年、看護管理17年以上

領域	専門分野（基礎看護学）	開校時期	2年後期
科目名	看護研究理論	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師	専任教員		

〈目的〉看護研究の意義を理解し、看護研究についての基礎的知識を学ぶ。

〈目標〉

- 1 看護研究の必要性、看護研究の方法、看護研究の現状を学ぶ。
- 2 看護研究の基本的考え方、進め方、倫理的配慮について理解し、看護論文のまとめ方を学ぶ。

〈内容〉

回数	目次	テーマ	教授方法
1回目	第1・3章	研究とは ・原著論文をクリティイークして概要を理解する。	講義
2回目	第2章	リサーチクエスチョンと文献検索 ・テーマを絞り込む意義と手法を理解する。	講義、GW
3回目	第5章	研究デザイン ・多角的なデザインの意味を理解する。	講義、演習
4回目	第6・4章	データの収集と倫理的配慮 ・アンケートの作成手順 ・アンケート実施における注意事項	講義
5回目	第7章	量的研究 ・データの収集と分析	講義、演習
6回目	第7章	質的研究 ・データの収集と分析	講義、演習
7回目	第8章	研究計画書と結果の公表 ・作成の意義と構成	講義

授業の進め方(教授方法、教材、教具など)

講義、演習、

テキスト・参考文献

1 系統看護学講座 別巻 「看護研究」 医学書院

評価方法

- 1 筆記試験
- 2 レポート)

科目名			区分	
看護研究演習			基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期・後期(通年)	30 (1)	(講義)・(演習)・実習	専任教員(※1)

<授業概要>
看護研究理論で学習した知識をもとに、臨地実習で受け持った事例を振りかえり、自らが行った看護の実際から得られた結果を分析し、論文をまとめ。この過程を通して、論理的思考や科学的問題解決能力を養い、研究の効果的なプレゼンテーションの方法や研究に対する倫理について理解することができる。

<授業目標(GIO)>
看護研究理論で学習した知識をもとに、事例に関する課題を設定し、文献検討をもとに看護計画を立案する。その計画に基づいて、実践を行い、得られた結果の分析を経て、論文をまとめる。これらの過程を通して、論理的思考や科学的問題解決能力を養う。また、研究の効果的なプレゼンテーションの方法や研究に対する倫理についても学ぶ。

<行動目標(SBO)>

- 1 研究過程が理解できる。
- 2 論理的思考を活用し、事例を振り返り、論文にまとめることができる。
- 3 文献検索ができ、活用することができる。
- 4 プrezentation技法を用い発表できる。
- 5 ケーススタディの意義と限界を理解できる。

<授業の留意点>
個人ワークおよび指導受けは実習終了後に計画的にアポをとり隨時行う。
発表会は12月初旬予定
発表内容は小冊子を作成予定

<教科書>
系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院

<参考書>
看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 新版 照林社

授業計画		備考
1	ケースレポートと事例研究の違いとケーススタディの意義と限界を理解する。	講義
2	ケーススタディの実際を学ぶ。	グループワーク
3	レポートの構造を理解する。	講義
4	ケーススタディの方向性と文献検索を学ぶ。	講義
5	発表要領を説明する。	講義
6	研究発表会	演習
7	研究発表会	演習
8	研究発表会	演習
9	研究発表会	演習
10	研究発表会	演習
11	研究発表会	演習
12	研究発表会	演習
13	研究発表会	演習
14	研究発表会	演習
15	研究発表会	演習

成績評価
研究論文・プレゼンテーション100%

※1 看護師として病院及び在宅分野で実務経験15年以上

科目名			区分	
基礎看護技術 I			基礎・専門基礎・専門 I・専門 II・統合	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 後期・通年	60 (2)	講義・演習・実習	専任教員(※1) 専任教員(※2) 専任教員(※3) 専任教員(※4)

<授業概要>
看護技術には、全人的なかかわり、人間関係が基盤、状況変化への対応、患者の権利擁護、倫理的判断が求められるなどの特徴がある。看護援助の基盤となる科目である。
<授業目標(GIO)>
看護技術の基礎的な知識と標準的な方法を習得することができる。
<行動目標(SBO)>
①看護技術の目的を把握する。 ②正確な方法を熟知する。 ③看護技術の根拠を考える。 ④患者への適用意義と個別性を考慮する。 ⑤インフォームドコンセントの理解。 ⑥安全・安楽を確保する。 ⑦プライバシーを保護する。 ⑧患者の状態や反応を確認しながら実施する。 ⑨実施後の客観的評価と主観的評価。
<授業の留意点>
本授業はすべての看護技術の基盤となるものであり、知識・技術の復習を十分に行うこと。
<教科書・参考書>
系統看護学講座 専門 I 看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門 I 看護技術 II 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術

授業計画		備考
1 コミュニケーションの意義と目的、構成要素と成立過程		講義
2 関係構築のためのコミュニケーションの基本、実際		講義
3 コミュニケーション障害への対応		講義
4 療養環境の調整の意義、構成要素、病室と病床の環境調整		講義
5 ベッドメーキング・リネン交換の実際		講義・演習
6 臥床患者のシーツ交換		講義・演習
7 感染と感染予防の基礎知識、看護師の責務と役割		講義
8 CDCガイドライン、スタンダードプロローション、感染経路別予防策感染源対策		講義・演習
9 感染経路への対策(手洗い・防護用具・無菌操作)感染性医療廃棄物		講義
10 活動・休息援助技術(基本的活動の援助、体位、体位変換、移動・移乗・移送)		講義
11 体位変換、移動・移乗・移送の技術		演習
12 睡眠と休息の援助(基礎知識、睡眠障害のアセスメント、援助の実際)		講義
13 苦痛の緩和・安楽確保の技術(体位保持、電法、身体ケアを通じてたらされる安楽)		講義
14 体位保持、電法の技術		演習
15 ヘルスアセスメント、健康歴とセルフケア能力のアセスメント		講義
16 フィジカルアセスメントに必要な技術		講義
17 バイタルサイン(体温、脈拍)の技術		講義
18 バイタルサイン(呼吸)の技術		講義
19 バイタルサイン(血圧・触診法)の技術		講義・演習
20 バイタルサイン(血圧・聴診法)の技術		講義・演習
21 バイタルサイン(意識)身体計測の実際		講義・演習
22 診査(聴診、打診、触診)技術演習		演習
23 バイタルサイン測定技術演習		演習
24 呼吸器系、循環器系のフィジカルアセスメント		講義
25 乳房・腋窩、腹部のフィジカルアセスメント		講義
26 筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント		講義
27 頭頸部・感覺器・外皮系のフィジカルアセスメント		講義
28 心理・社会状態のアセスメント		講義
29 バイタルサイン測定技術演習		演習
30 技術試験(バイタルサイン)		試験
31 定期試験		試験
成績評価		
課題10%、筆記試験80%、技術試験10%		

※1 看護師として病院で実務経験31年以上

※2 看護師として病院で実務経験10年以上

※3 看護師として病院で実務経験10年以上

※4 看護師として病院及び在宅分野で実務経験15年以上

科目名			区分	
基礎看護技術 II			基礎・専門基礎・専門 I・専門 II・統合	
開講年次	開講期	時間数(単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期・後期・通年	60 (2)	講義・演習・実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要>		授業計画	備考
<p>人間にとって、健康を保つ上での食事、排泄、清潔の意義を理解する。それとともに、対象各々の対象の病態に応じた食事、排泄、清潔に関する基本的・具体的な援助方法について学習する。さらに、人間の尊厳およびプライバシー保持など、援助に関連した基礎的態度を学ぶ。</p>		1. 食事・栄養摂取の意義と仕組みを理解する。 2. 食事・栄養摂取のアセスメントを学ぶ。 3. 患者への食事の援助を学ぶ。 4. 経管栄養(経管栄養法、胃瘻栄養法)の実際を学ぶ。 5. 中心静脈栄養について学ぶ。	講義
<p><授業目標(GIO)></p> <ol style="list-style-type: none"> 対象の健康状態に応じた食事援助の根拠と方法を学び、校内演習を通して食の援助技術を習得するとともに、看護者としての態度を身につける。 排泄の日常生活援助技術および、排便・排尿障害のある対象の診療の補助業務の基礎と排泄援助に関連した基礎的態度を習得する 患者の日常生活を整えるための身体の清潔と衣生活の意義を理解し、清潔援助技術を習得するとともに、看護者としての態度を身につける。 		6. 排泄の意義とメカニズムを理解する。 7. 排泄の情報収集・アセスメントを学ぶ。 8. 自然排尿・自然排便の援助を学ぶ。 9. 排泄における日常生活援助の種類と方法・留意点を学ぶ。 10. 排泄機能障害の種類と援助の基本を理解する。 11. 演習 基本:便器の當て方・おむつ交換・ポータブルトイレほかを学ぶ。 12. 演習 処置:導尿の一連の手順を学ぶ。	講義
<p><行動目標(SBO)></p> <p>1) 食事援助技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 食事・栄養摂取の意義と仕組みを理解する。 ② 栄養状態および、摂取能力のアセスメントができる。 ③ 食事介助の基礎知識を理解し、具体的な食事介助の技術を習得する。 ④ 経管栄養、末梢静脈栄養の基本知識と援助がわかる。 <p>2) 排泄援助技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 排泄援助の意義が理解できる。 ② 排尿・排便のメカニズムを理解し、排泄援助のアセスメントの視点が理解できる。 ③ 排泄援助の種類や方法が理解できる。 ④ 排泄援助の基本技術が安全・安楽に実施できる。 <p>3) 清潔・衣生活援助技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 清潔援助の基礎知識と身体の清潔が生体や精神に及ぼす影響と効果を理解する。 ② 清潔・衣生活に関するニーズをアセスメントし、適切な援助方法を選択し、効果的・効率的なケアの方法を説明できる。 ③ 安全・安楽・自立をふまえた、臥床患者の清潔の援助と寝衣交換の技術を習得する。 		13. 演習 処置:導尿の手技を体験する。 14. 演習 処置:浣腸の一連の手順を学ぶ。 15. 演習 処置:浣腸の手技を体験する。 16. 1. 清潔の援助の基礎知識と効果を理解する。 2. 対象の状態に応じた援助の決定と留意点を理解する。 3. 清潔の援助の実際(入浴・シャワー浴の一連の手順を学ぶ) 4. 清潔の援助の実際(手浴・足浴とフットケア、陰部洗浄の一連の手順を学ぶ)	講義
<p><授業の留意点></p> <p>既習学習の解剖生理学を基にし、日常生活援助技術の必要性をアセスメント・実施できるための知識の統合を行う。不明な点は積極的に質問して貴重な時間を有効活用して下さい。また、授業を欠席した場合、教科担当に申し出て授業で使用した必要な資料をもらいに来てください。</p>		5. 清潔の援助の実際(臥床患者の足浴とフットケアの一連の手順を学ぶ) 6. 清潔の援助の実際(臥床患者の足浴とフットケアの手技を体験する) 7. 衣生活に関する援助の基礎知識と衣生活のニーズのアセスメントと衣生活の援助の実際として、①病衣の選び方と②病衣・寝衣の交換方法を学ぶ。 8. 清潔の援助の実際(全身清拭の手順を学ぶ) 9. 清潔の援助の実際(石けんを使った全身清拭の一連の手順を学ぶ)	DVD
<p><教科書・参考書></p> <p>テキスト・参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院) 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II (医学書院) 根抗と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 		10. 清潔の援助の実際(石けんを使った全身清拭の手技を体験する) 11. 清潔の援助の実際(整容・口腔ケアの目的と手順を学ぶ) 12. 清潔の援助の実際(臥床患者の口腔ケアの手技を体験する) 13. 清潔の援助の実際(洗髪の一連の手順を学ぶ)	DVD
		14. 清潔の援助の実際(ケーラーバッド洗髪車を使った臥床患者の洗髪を体験する) 15. 清潔の援助の実際(ケーラーバッド洗髪車を使った臥床患者の洗髪を体験する)	
		31. 定期試験	
成績評価			
1. 筆記試験70% 2. 課題10%			
3. 技術試験(臥床患者の全身清拭)20%			

※1 看護師として病院で実務経験18年以上

※2 看護師として病院で実務経験17年以上

科目名			区分	
基礎看護技術III			基礎・専門基礎・専門I・専門II・統合	
開講年次	開講期	時間数(単位数)	授業形態	担当者
1年次	(前期) 後期・通年	60 (2)	(講義)・(演習)・実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要>

治療・処置に伴う援助技術を習得するための、診療に関する援助技術、治療処置、与薬、救命救急処置、創傷管理、包帯法、褥瘡処置、穿刺、洗浄、輸血法、治療別看護、医療用機器の管理と実際を学ぶ。

<授業目標(GIO)>

- 専門基礎分野で学んだ、必要な解剖生理学の知識を想起し確実で安全な看護技術を実施できる方法を学ぶことができる。
- 本科目で習得する各項目について、学生相互の生体、シミュレーター、モデル人形を用いて具体的に看護技術の実施ができる。
- 看護技術は、患者への説明と同意、観察、苦痛や不安を最小限するための配慮や救急対応の考え方を含み、科学的根拠を踏まえた基本的な方法が実施できる。

<行動目標(SBO)>

- 既習学習を基に本科目で必要な解剖学の構造と機能、メカニズムが理解できる。
- 診察・検査・処置、与薬・救急法などについての目的・基礎知識が理解できる。
- 診察・検査・処置、与薬・救急法などについて患者の安全・安楽に留意した援助技術の実際がわかる。
- 対象にとって、診察・検査・処置、与薬・救急法などについて援助技術自体が、患者の精神的・身体的苦痛をもたらす場合があることを説明できる。

<授業の留意点>

不明な点は積極的に質問して貴重な時間を有効活用して下さい。また、授業を欠席した場合、教科担当に申し出て授業で使用した必要な資料をもらいに来てください。

<教科書・参考書>

- テキスト・参考文献
- 系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院)
 - 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II (医学書院)
 - 接触と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

授業計画		備考
1. 呼吸・循環の意義	2. 呼吸・循環のメカニズム	3. 呼吸・循環に必要な観察項目・アセメント
4. 呼吸を助ける基礎的な援助方法(姿勢・呼吸法・気道分泌の排出・酸素療法・吸引)		
5. 呼吸を助ける基礎的な援助(胸腔ドレナージ、人工呼吸療法の目的、原理と基本操作および看護) 酸素ボンベの管理		
6. 演習: 吸入療法、酸素ボンベの取り扱い・酸素吸入・吸引		
7. 演習: 吸入療法、酸素ボンベの取り扱い・酸素吸入・吸引		
8. 1. 症状・生体機能管理技術の基礎知識と看護師の役割 2. 主な検査援助方法とモニタリング機器の取り扱い(検体検査(血液検査、尿検査、便検査、喀痰検査))		
9. 検査を受ける患者の苦痛や不快に配慮した説明の技術		
10. 検査結果に関するアセメント		
11. 血液検査援助の実際と技術の習得(真空採血管を用いた静脈血の採血・簡易血糖測定の演習)		
12. 血液検査援助の実際と技術の習得(真空採血管を用いた静脈血の採血・簡易血糖測定の演習)		
13. 1. 创傷の基礎知識 皮膚の構造・創傷の種類・治癒過程のメカニズム		
2. 创傷の観察 全身観察と局所的観察やドレーン導入部の観察方法		
14. 创傷処置についてのドレッシング材・包帯・創処置の方法		
15. 褥瘡の予防についての褥瘡発生のしくみ・好発部位・褥瘡の予防や評価と処置について		
16. 包帯法の実際と技術の習得(演習)		
17. 1. 診察の介助に伴う看護の役割		
2. 検査や検査場面に伴う看護の役割と介助技術		
18. 3. 体液検査と穿刺液検査・生体検査の援助方法(X線検査・X線断層撮影・MRI・血管造影・内視鏡検査)		
19. 4. 治療・処・洗浄の対象者の理解と看護者の役割と機能		
20. 5. 与薬に関する基礎知識: 与薬における看護師の役割・法的責任、患者への援助		
21. 6. 与薬の種類と与薬方法: 内用薬・外用薬		
22. 7. 注射法の基礎知識、種類と特徴: 皮下注射・皮内注射・筋肉内注射		
23. 8. モデルを用いて筋肉内注射(ワンショット)の実際と技術の習得 ①		
24. 9. モデルを用いて筋肉内注射(ワンショット)の実際と技術の習得 ②		
25. 10. モデルを用いて点滴静脈内注射の準備と実施法、輸液管理の実際		
26. 11. モデルを用いて点滴静脈内注射の準備と実施法、輸液管理の実際		
27. 12. 点滴静脈内注射の準備と実施法、輸液管理の実際		
28. 13. 輸液法の基礎知識と援助の実際: 管理方法、副作用(有害事象)の観察方法		
29. 1. 救命救急処置の基礎知識 2. 救急対応の考え方 3. 急変時ににおける初期対応 3. トリアージⅡ、救命蘇生法(肺蘇生法の基礎知識) 3. 止血法(止血法の基礎知識)		
30. 1. トリアージ 2. 1次救命処置の実際 ①気道確保 ②胸骨圧迫 ③人工呼吸 ④AEDによる除細動 3. 2次救命処置の実際 4. 止血法の実際		
31. 定期試験		
成績評価		
1. 筆記試験90% 2. 課題10%		

※1 看護師として病院で実務経験18年以上
※2 看護師として病院で実務経験15年以上

科目名			区分	
基礎看護技術Ⅳ			基礎・専門基礎・(専門Ⅰ)・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 <input checked="" type="radio"/> 後期 <input type="radio"/> 通年	30 (1)	講義・演習・実習	専任教員(※1) 専任教員(※2) 専任教員(※3)

<授業概要>
対象の発達段階や健康の段階及び症状にかかわることなく、あらゆる対象に共通する指導・安全・看取りの技術について、その特性と根拠を学ぶ。

<授業目標(GIO)>
健康段階: 健康状態の変化に伴う看護実践がわかる。
指導技術: 疾病の予防・セルフコントロールのための教育・指導技術の基本を身につける。
安全: 頻度の高いトラブルの発生要因と対策がわかる。
看取り: 死にゆく患者とその援助をイメージできる。

<行動目標(SBO)>
・あらゆる健康レベルにある患者の治療の特徴と患者・家族への援助について理解する。
・看護における患者教育・患者指導的重要性について理解する。
・SHELL分析手法のポイントがわかる。
・正しい確認技術を実践できる。
・患者要因となるリスクアセスメントができる。
・看護場面で「死」と遭遇することをイメージできる。
・死後の処置の手順と注意点がわかる。

<授業の留意点>
講義・演習での課題、講義後の復習を行い、ここで学んだ看護技術を実践の場で活用・実施出来るようにする。

<教科書>

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学
2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院

<参考書>
中範囲理論 日総研
根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術

授業計画			備考
1 急性期、回復期における看護 合併症予防と回復支援、侵襲に対する生体反応			講義
2 慢性期における看護 セルフケア 自己効力感 エンパワメント			講義・演習
3 終末期における看護 化学療法・放射線療法での看護			講義
4 看護における教育・指導、健康教育の重要性 セルフケアの概念と教育、ニーズへの対応			講義
5 指導の対象者および指導の場			講義・演習
6 指導におけるアプローチ方法 個人と集団の教育・指導のメリットとデメリット			講義・演習
7 指導の進め方 指導内容 指導方法 指導教材			講義・演習
8 指導の評価 指導内容 指導方法 指導教材			講義・演習
9 第5章 看護場面で間違いが起きることをイメージし、「医療安全」の成り立ちと法的責任を理解する。			講義 (課題提示)
10 重大事故事例の発生要因を検討することで、事故の発生メカニズムと再発防止策を理解できる。			講義・演習
11 与薬に関する間違いの要因と防止策を学ぶことにより、正しい5R確認方法を身につける。			講義・演習
12 チューブ・ラインの種類と特徴から起こりやすいトラブルの要因と防止策を学ぶ。			講義・演習
13 転倒・転落の発生要因とリスクアセスメントチェックリストを学び、防止策を理解する。			講義・演習
14 死亡の場所の特徴とそれぞれの場でのケア及び家族へのケアを学ぶ。			講義
15 わが国の風習に根づく死後の処置の基礎知識や援助の実際を学ぶ。			講義・演習
16 本試験			
成績評価			
筆記試験100%			

※1 看護師として病院及び保健所で実務経験14年以上

※2 看護師として病院で実務経験13年、看護管理17年以上

※3 看護師として病院及び訪問看護ステーションで実務経験15年以上

科目名			区分	
基礎看護技術Ⅴ			基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数(単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期・後期・通年	30(1)	講義・演習・実習	専任教員(※1)

<授業概要>
看護のあり方は、個人の健康問題を看護の目で総合的に把握・分析し、看護計画を立案、実施・評価するという一連の流れの中で、対象の健康回復を促すことである。本授業において、「看護の目から患者を見る」と「健康回復のための情報分析及び援助の方向性を導き出す」ことの考え方を学ぶ。
<授業目標(GIO)>
問題解決思考をもとに、看護の過程における思考の方法を習得する。
<行動目標(SBO)>
看護実践に必要な技術の基礎的知識を理解でき、看護過程の展開ができる。
<授業の留意点>
基礎看護学実習Ⅰと同時期に授業を行うことによって、患者の持つ情報の重要性に気づくことができるよう授業をすすめていく。
<教科書>
系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
<参考書>
1. 患者さんの情報収集ガイドブック メディカルフ レンド社 古橋洋子著 2. NANDA-I看護診断 2018-2020 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 4. その他資料

授業計画		備考
1 I. 看護過程を理解する 1. 看護過程の概要 1) 看護過程とは		講義
2 ① アセスメント・情報の意味づけ ② 看護問題の明確化(看護診断) ③ 計画 ④ 実施 ⑤ 評価		講義
3 2) 看護過程の各段階、各段階の相互関係 (1) 症状に対してのアセスメント		講義・演習
4 2. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方を理解する 1) 問題解決過程 2) クリティカルシンキングと看護過程との関係		講義
5 3) 倫理的判断 4) リフレクション 3. 看護記録の書き方を理解する 1) 看護記録とは 2) 構成 留意点		講義
6 II. 事例を用いてのペーパーシミュレーション 事例: 急性心筋梗塞 事例紹介		講義・演習
7 1. 急性心筋梗塞での情報収集を理解する グループワーク		講義・演習
8 2. アセスメントを理解する 個人でのアセスメント検討		講義・演習
9 3. アセスメントを理解する グループでのアセスメント検討		講義・演習
10 4. 看護問題の明確化(看護診断)を理解する 個人ワーク		講義・演習
11 5. 看護計画を理解する 個人ワーク		講義・演習
12 6. 看護計画を理解する グループワーク		講義・演習
13 7. 看護における実施・評価を理解する 個人での看護を評価		講義・演習
14 8. 看護における実施・評価を理解する グループでの検討		講義・演習
15 9. 看護過程の展開をリフレクションし、学びを深める		講義・演習
16 筆記試験		

成績評価	
1. 筆記試験(50%)	2. 課題:レポート, 事例展開(40%)
3. グループワーク(10%)	

※1 看護師として病院及び保健所で実務経験14年以上

科目名			区分	
成人看護学概論			基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	(前期)・後期・通年	30 (1)	(講義)・(演習)・実習	専任教員(※1)

<授業概要>		授業計画	備考
大人を対象に、その人にとって最適な健康を維持・促進するための看護技術を学ぶ。成人看護学における基盤となる考え方や、理論、援助方法論を学び、具体的な看護を理解するための「成人看護学各論」をより効果的に学べるようにする。	1 I. 成人の生活と健康を理解する 成人の定義・発達段階・発達課題・各期の特徴	講義	
<授業目標(GIO)>	2 成人を取り巻く環境と生活を理解する。	講義	
ライフサイクルにおける成人期の特徴を身体的・精神的・社会的に理解し、成人期の対象の理解と健康問題、その人にとって最適な健康の保持、増進への看護の実際を学ぶ	3 成人の生活を理解するための視点と方法を学ぶ	講義	
<行動目標(SBO)>	4 健康をおびやかす要因を理解する。	講義	
1. ライフサイクルにおける成人各期の特徴を身体的・精神的・社会的に理解する 2. 成人各期の発達段階・健康問題を理解する 3. 成人保健の意義を理解し、健康の保持・増進の実際について学ぶ 4. 成人看護の特徴、関連する看護理論について理解する	5 II. 成人への看護アプローチの基本を理解する 1) 成人期における健康障害の特徴を理解する 6 2) 健康問題をもつ成人と看護師の人間関係 3) 成人期の疾病構造	講義	
	7 4) 集団へのアプローチ 5) 意思決定支援 6) 家族支援	講義	
	8 III 成人の健康レベルに対応した看護を理解する 1. ヘルスプロモーションと看護を理解する	講義・演習	
<授業の留意点>	9 2. 生活行動がもたらす健康問題を理解する 1) トランスセオリティカルモデルで考える	講義・演習	
本授業は、成人看護学の基礎となるもの、授業後の復習をしっかりと行う	10 3. 急性期にある対象と看護を理解する 1) 急性期の定義と対象 2) 必要な援助	講義・演習	
	11 3) 看護理論: 危機理論を使って理解する 4) 不安侵襲的治療を受ける患者への看護技術	講義・演習	
<教科書>	12 4. 慢性期にある対象と看護を理解する 1) 慢性期の定義と対象 2) 必要な援助 3) 看護理論: 障害受容過程	講義・演習	
1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院	13 1) エンパワメント-エデュケーション 2) 自己効力を高める看護教育	講義・演習	
<参考書>	14 5. リハビリテーション期にある対象と看護を理解する 1) リハビリテーション期の定義と対象 2) 必要な援助	講義	
1. 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 2. 事例を通してやさしく学ぶ 中範囲理論入門 第2版 日経研	15 6. 終末期にある対象と看護を理解する 1) 終末期の定義と対象 2) 必要な援助 3) 看護理論: 死の受容過程	講義	
	16 筆記試験		
成績評価			
筆記試験 80%			
課題レポート 20%			

※1 看護師として病院及び保健所で実務経験14年以上

領域	専門分野Ⅱ	開講時期	1学年後期
科目名	成人看護学援助論Ⅰ (呼吸機能障害)	単位数 (時間数)	1単位 (30時間うち13時間)
講 師	非常勤講師		

授業の内容（概要）

1 呼吸機能障害と日常生活

- 1) 呼吸機能とその役割
- 2) 呼吸機能とその障害
- 3) 呼吸機能障害がもたらす生命・生活への影響

2 呼吸機能障害の把握と看護

- A. 呼吸困難
- B. 咳嗽・喀痰
- C. 血痰・喀血
- D. 胸痛

3 呼吸機能障害の検査・治療に伴う看護

- 1) 呼吸機能の検査に伴う看護
- 2) 呼吸機能障害の治療に伴う看護

4 呼吸機能障害のある患者の看護

- A. 気管支喘息患者の看護
- B. 間質性肺炎患者の看護
- C. 慢性閉塞性肺疾患患者の看護
- D. 肺癌患者の看護
- E. 鉄欠乏性貧血患者の看護

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

講義

主テキスト

新体系看護学全書別巻1 呼吸機能障害/循環機能障害第2版（メディカルフレンド社）

※学校指定の教科書を使用します

参考文献

専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器 13版（医学書院）

評価方法

筆記試験 100%

領域	専門分野Ⅱ	開講時期	1学年後期			
科目名	成人看護学援助論Ⅰ (循環機能障害)	単位数 (時間数)	1単位 17時間／30時間			
講 師	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
<p>（目的） 成人期にある循環機能の障害を持つ人への看護を理解する。</p> <p>（目標） 成人期にある人の循環機能障害の特徴について理解する。 循環機能障害のある成人の看護について理解する。</p> <p>（内 容）</p> <p>循環機能の障害の特徴と症状に対する看護 循環器疾患をもつ患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 高血圧患者の看護 2) 心不全患者の看護 3) 狹心症患者の看護 4) 心筋梗塞患者の看護 5) 解離性大動脈瘤患者の看護 6) 弁膜症患者の看護 7) 閉塞性動脈硬化症患者の看護 8) 不整脈のある患者の看護 <p>検査と治療を受ける患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 心臓カテーテルを受ける患者の看護 2) PCI を受ける患者の看護 3) 開心術を受ける患者の看護 4) ペースメーカー植え込み患者の看護 5) 心臓リハビリテーションを受ける患者の看護 						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
講義						
主テキスト						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（3） 循環器（医学書院）						
参考文献						
評価方法						
筆記試験 100%						

科目名			区分	
成人看護学援助論Ⅱ			基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期・後期・通年	30 (1)	(講義)・(演習)・実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要>

成人期にある人を対象として、生活者としての消化・吸収機能、栄養代謝機能とその障害を持つ人への看護を理解する。

<授業目標(GIO)>

- 消化・吸収機能および栄養代謝機能が人間の生命・生活に果たす役割を学ぶ。
- 消化・吸収機能および栄養代謝機能が障害される要因について理解する。
- 消化・吸収機能および栄養代謝機能が成人期の対象に及ぼす影響を理解し、消化吸収機能障害をもつ成人の看護を学ぶ。

<行動目標(SBO)>

- 既習学習を基に、各臓器における消化・吸収機能および栄養代謝機能を説明できる。
- 消化・吸収機能および栄養代謝機能の障害に対する検査・治療の看護を説明できる。
- 消化・吸収機能および栄養代謝機能の障害が日常生活に及ぼす影響を説明できる。

<授業の留意点>

既習学習の疾患の病態生理を想起し、疾患による症状がどのように生活に影響するかを関連づけることができるようとする。
検査・治療の手順だけでなく、看護師としての役割をイメージできるようにする。

<教科書>

系統看護学講座 臨床看護総論（医学書院）
系統看護学講座 成人看護学 消化器（医学書院）
系統看護学講座 成人看護学 内分泌・代謝（医学書院）

<参考書>

授業計画		備考
1	消化・吸収機能障害と日常生活	講義
2	消化・吸収機能障害の病態生理	講義
3	消化・吸収機能障害の症状と看護 食欲不振・嘔吐・腹痛・腹部膨満	講義
4	消化・吸収機能障害の症状と看護 下痢・便秘・吐血・下血・腹痛	講義
5	治療・処置を受ける患者への看護	講義
6	消化・吸収機能の検査と看護	講義
7	消化・吸収機能障害の治療と看護	講義
8	食道疾患患者の看護、胃・十二指腸疾患患者の看護	講義
9	腸・腹膜疾患患者の看護、大腸癌患者の看護 (ストーマ造設)	講義
10	周手術期の看護、ストーマ処置	演習
11	栄養・代謝機能障害と生命・日常生活への影響	講義
12	栄養・代謝機能障害の把握と看護	講義
13	栄養・代謝機能障害の治療と看護 (肝不全・高尿酸血症)	講義
14	栄養・代謝機能障害の治療と看護 (脂質異常症・肥満)	講義
15	栄養・代謝機能障害の治療を受ける患者の看護	講義
16	筆記試験	

成績評価
筆記試験100%

※1 看護師として病院で実務経験10年以上

※2 看護師として病院で実務経験22年以上

領域	専門領域	開講時期	2年生前期			
科目名	成人看護学援助論Ⅲ (血糖調節機能障害)	単位数 (時間数)	12時間／30時間			
講 師	非常勤講師					
授業内容（概要）						
1 血糖調節機能とその役割 1) 内分泌疾患の概要 2) 代謝疾患の概要 3) 糖代謝疾患の概要						
2 糖代謝疾患の症状と合併症 1) 高血糖と低血糖 2) 細小血管障害 3) 大血管障害						
3 糖代謝疾患の検査と看護						
4 糖代謝疾患の治療とその目的 1) 治療目標と血糖コントロールの目標 2) 食事療法 3) 運動療法 4) 薬物療法						
5 看護と療養支援 1) 発達段階別の看護 2) 疾患に対する心理的反応 3) 慢性疾患の自己管理						
6 自己血糖測定の手順と指導方法						
7 自己注射の手順と指導方法						
8 症例検討						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
パワーポイントによる講義 自己血糖測定器とデバイスを使用した実践 自己管理ノート、糖尿病連携手帳など参考にする						
テキスト・参考文献						
専門分野Ⅱ 成人看護学⑥内分泌・代謝 14版（医学書院）						
評価方法						
・筆記試験 100%						

領 域	専門分野Ⅱ	開講時期	2年生前期			
科目名	成人看護学援助論Ⅲ (pH調節障害・尿路障害)	単位数 (時間数)	9時間／30時間			
講 師	非常勤講師					
授業内容（概要）						
<p>1 pH調節障害と日常生活</p> <p>1) pH調節機能とその役割 2) pH調節機能とその障害 3) pH調節障害がもたらす生命・生活への影響</p> <p>2 pH調節機能障害の把握と看護</p> <p>1) 呼吸性アシドーシス 2) 代謝性アシドーシス 3) 呼吸性アルカローシス 3) 代謝性アルカローシス</p> <p>3 pH調節機能・尿路障害の検査治療に伴う看護</p> <p>1) ポンプ・輸送還流機能を把握するための検査と看護 (1)pHを調べる検査 (2)血液緩衝系と関連因子の状態を調べる検査 (3)肺胞によるpH調節機能を調べる検査 (4)腎臓によるpH調節機能を調べる検査</p> <p>2) pH調節機能障害の治療に伴う看護 (1)pHの補正 (2)肺胞によるpH調節機能を維持する治療 (3)腎によるpH調節機能を維持する治療</p> <p>3) pH調節機能障害をもつ患者の看護 (1)急性腎不全患者の看護 (2)慢性腎不全患者の看護</p>						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
教科書を中心に、パワーポイントも使用						
主テキスト						
新体系看護学全書別巻3 内部環境調節機能障害/身体防御機能障害 (メヂカルフレンド社)						
参考文献						
なし						
評価方法						
筆記テスト 100%						

領 域	専門分野Ⅱ	開講時期	2年生前期			
科目名	成人看護学援助論Ⅲ (身体防御機能障害)	単位数 (時間数)	9時間／30時間			
講 師	非常勤講師					
授業内容（概要）						
<p>1 身体防御機能障害と日常生活</p> <p>1) 身体防御機能とその役割</p> <p>(1)身体防御機能とは何か (2)身体防御機能と生命・生活</p> <p>2) 身体防御機能とその障害</p> <p>(1)一次バリアとその障害 (2)二次バリアとその障害</p> <p>(3)サポート機能とその障害</p> <p>3) 身体防御機能障害がもたらす生命・生活への影響</p> <p>2 身体防御機能障害の把握と看護</p> <p>1) 一次バリア障害</p> <p>(1)発疹 (2)創傷 (3)褥創 (4)熱傷 (5)感染</p> <p>2) 二次バリア障害</p> <p>(1)アレルギー (2)自己免疫異常 (3)免疫不全</p> <p>3) サポート機能の障害</p> <p>(1)中毒 (2)出血傾向</p> <p>3 身体防御機能障害の検査治療に伴う看護</p> <p>1) 身体防御機能検査に伴う看護</p> <p>(1)一次バリア（皮膚・粘膜）の検査に伴う看護</p> <p>(2)二次バリア（免疫機能）の検査に伴う看護</p> <p>(3)サポート機能の検査に伴う看護</p> <p>2) 身体防御機能の治療に伴う看護</p> <p>(1)一次バリア（皮膚・粘膜）の障害の治療の看護</p> <p>(2)二次バリア（免疫機能）の治療に伴う看護</p> <p>(3)サポート機能障害に伴う看護</p> <p>4 身体防御機能障害を持つ患者の看護</p> <p>1) アトピー性皮膚炎患者の看護 2) 皮膚がん患者の看護</p> <p>3) M R S A 感染症患者の看護 4) 全身性エリテマトーデス患者の看護</p> <p>5) H I V / A I D S 患者の看護 6) 急性白血病患者の看護</p> <p>7) 慢性白血病患者の看護 8) 悪性リンパ腫患者の看護</p> <p>9) D I C 患者の看護</p>						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
講義						
主テキスト 新体系看護学全書別巻3 内部環境調節機能障害/身体防御機能障害 (メヂカルフレンド社)						
参考文献 なし						
評価方法 筆記試験 100%						

領域	専門領域	開講時期	2年生前期			
科目名	成人看護援助論IV(運動器)	単位数 (時間数)	17時間／30時間			
講 師	非常勤講師					
授業内容（概要）						
<p>1 運動機能障害と日常生活への影響を理解する</p> <p>2 運動機能障害の把握と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 良肢位を理解する 2) ADL・歩行状態の観察 3) 関節可動域・筋力の測定の理解 4) 起座困難・体位変換困難・歩行困難・把握困難・網羅性の障害・運動機能に関する痛み 日常生活活動困難・廃用性変化を理解する <p>3 運動機能障害の検査・治療に伴う看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 運動機能の検査に伴う看護 2) 運動機能の治療に伴う看護 <p>4 運動機能障害を持つ患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 関節リウマチ患者の看護 2) 椎間板ヘルニア患者の看護 3) 重症筋無力症患者の看護 						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
講義						
テキスト・参考文献						
新体系看護学全書 機能障害からみた成人看護学5 運動機能障害 性・生殖機能障害 (メディカルフレンド社)						
評価方法						
1 試験 100%						

領域	専門分野Ⅱ	開講時期	2年生前期			
科目名	成人看護学援助論IV (感觉器)	単位数 (時間数)	6時間／30時間			
講 師	非常勤講師					
【授業概要】						
〈単元の目標〉						
1. 視覚・聴覚・嗅覚・味覚の機能と障害を理解し、説明できる 2. 感覚器の機能障害患者の特徴的な症状と看護のポイントが理解できる 3. 代表的な感覚機能の検査方法と看護を理解できる						
〈内容〉						
1. 視覚機能障害と患者の看護 1) 視覚障害の症状 (1) 視力障害 (2) 視野障害 2) 視覚機能障害による心身・日常生活への影響 3) 視覚機能障害の治療・検査に伴う看護 (1) 視力検査 (2) 視野検査 4) 視覚機能障害を起こす疾患の看護 (1) 白内障 (2) 緑内障 (3) 網膜剥離						
2. 聴覚機能障害と患者の看護 1) 聴覚機能障害の症状 (1) 感音性難聴 (2) 伝音性難聴 2) 聴覚機能障害による心身・日常生活への影響 3) 聴覚機能障害の治療・検査に伴う看護 4) 聴覚機能障害を起こす疾患の看護 (1) 中耳炎 (2) メニエール病						
3. 味覚機能障害と患者の看護 1) 味覚機能障害の治療・検査に伴う看護 2) 味覚機能障害を起こす原因・疾患と看護 (1) 亜鉛欠乏性味覚障害						
4. 嗅覚機能障害と患者の看護 1) 嗅覚機能障害の治療・検査に伴う看護 2) 嗅覚機能障害を起こす原因・疾患 (1) 副鼻腔炎						
5. 触角機能障害と患者の看護 1) 触角機能障害の治療・検査に伴う看護 2) 触角機能障害を起こす病態・症状と看護						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
1. 講義						
テキスト・参考文献						
1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13] 眼 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院						
評価方法						
1. 試験（筆記）100%						

分 野	専門分野II	開講時期	2年生 前期			
科目名	成人看護学援助論IV(性・生殖器)	単位数 (時間数)	6 時間／30 時間			
講 師	専任教員					
授業内容（概要）						
<p>1 性・生殖機能障害と日常生活</p> <p>1) 性・生殖機能とその役割</p> <p>(1)男性生殖器 (2)女性生殖器</p> <p>2) 性・生殖機能とその障害</p> <p>(1)性機能とその障害</p> <p>(2)生殖機能とその障害</p> <p>2 性・生殖機能障害の把握と看護</p> <p>1) 男性に現れる症状と看護</p> <p>2) 女性に現れる症状と看護</p> <p>3 性・生殖機能障害の検査・治療に伴う看護</p> <p>1) 性・生殖機能の検査・治療に伴う看護（男性）</p> <p>2) 性・生殖機能の検査・治療に伴う看護（女性）</p> <p>4 性・生殖機能障害を持つ患者の看護</p> <p>1) 前立腺癌患者の看護</p> <p>2) 子宮がん患者の看護</p> <p>2) 乳癌患者の看護</p>						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
講義						
主テキスト						
新体系看護学全書別巻5 運動機能障害 / 性・生殖機能障害（メディカルフレンド社）						
プリント使用						
参考文献						
なし						
評価方法						
筆記試験						

科目名			区分	
成人看護学援助論V			基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	専任教員(※1)

<授業概要>
周手術期にある患者の看護、慢性疾患を持つ、生涯にわたって疾患のコントロールが必要な患者の看護、終末期で生命が危機状態にある患者の看護の看護過程の展開の方法を理解することができる。
<授業目標(GIO)>
成人期にある対象の事例を用いて、成人期の特徴を理解し、健康の段階に応じた看護過程の展開ができる。
<行動目標(SBO)>
既習学習である看護過程の展開を基に健康障害をもつ成人の看護を理解し、成人看護に必要な知識・技術を統合することができる。
<授業の留意点>
3事例を通じ、既習学習を基にそれぞれの健康段階の特徴を踏まえた看護過程の展開を行うことで知識の統合を行う。また、グループワークを行うことで知識の共有と知識の定着をねらいとし授業を進めていく。
<教科書>
1. 統一看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ
<参考書>
1. 統一看護学講座 成人看護学(5) 消化器 医学書院 2. 統一看護学講座 成人看護学(6) 内分泌・代謝 医学書院 3. 統一看護学講座 成人看護学(2) 呼吸器 医学書院 4. 統一看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 5. 統一看護学講座 成人看護学総論 成人看護学① 6. 統一看護学講座 臨床看護学総論 医学書院

授業計画		備考
1	生涯にわたって疾患のコントロールが必要な患者へ教育・指導についての看護過程を学ぶ。	講義
2	自己学習を基に、アセスメントを行い関連図を検討する。	グループワーク
3	グループワーク発表、追加説明	プレゼンテーション・講義
4	自己学習を基に、関連図を作成し、看護診断、看護計画を作成する。	グループワーク
5	グループワーク発表、追加説明、まとめ	プレゼンテーション・講義
6	開腹術を受ける周手術期患者の術前・術直後・術後の看護についての看護過程を学ぶ。	講義
7	自己学習を基に、アセスメントを行い関連図を検討する。	グループワーク
8	グループワーク発表、追加説明	プレゼンテーション・講義
9	自己学習を基に、関連図を作成し、看護診断、看護計画を作成する。	グループワーク 発表・講義
10	グループワーク発表、追加説明、まとめ	プレゼンテーション・講義
11	患者及び家族の苦痛の緩和(全人的苦痛)、身体的・心理的・社会的ニーズをふまえた看護の展開	講義
12	自己学習を基に、アセスメントを行い関連図を検討する。	グループワーク
13	グループワーク発表、追加説明	プレゼンテーション・講義
14	自己学習を基に、関連図を作成し、看護診断、看護計画を作成する。	グループワーク 発表・講義
15	グループワーク発表、追加説明、まとめ	プレゼンテーション・講義
16	定期試験	

成績評価
課題、事例展開レポート提出状況・(90%) グループワーク(10%)

※1 看護師として病院で実務経験10年以上

領 域	専門分野Ⅱ	開講時間	1年生後期			
科 目 名	老年看護概論	単位数（時間数）	1単位（30時間）			
講師氏名	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
<p>老年期はライフサイクルの最終ステージであり、人間的成熟・統合に向けて成長・発達する段階でもある。加齢に伴う、身体的・精神的・社会的变化により、健康問題の出現、人間関係・社会的役割・経済生活など様々な变化や喪失を体験する時期でもある。</p> <p>この科目は老年看護の導入部分である。</p> <p>高齢化社会の現状と、法・制度について学習し老人保健法、介護保険法のもとに取り組まれている事業について理解し老年看護の活動の場について学習を深め関係職種との連携について理解する。</p>						
<p>（授業内容）</p> <p>1 高齢社会の現状</p> <p>2 老年看護の対象</p> <p>老年期の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体的機能の変化 精神的機能の変化 社会的機能の変化 高齢者と家族 高齢者と地域社会の支援体制 <p>3 老年看護の機能と役割</p> <p>4 老人保健・医療・福祉の動向</p> <p>5 老年看護活動の場の拡大とチームワーク・システム作りの重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 老年看護活動の場と看護 2) 地域における看護 3) 老人看護・医療・福祉の統合と連携 4) 看護職と介護従事者の連携 						
授業の進め方（教授方法、教材・教具）						
<p>高齢者を身近に感じてもらえるように、高齢者疑似体験で、高齢者疑似体験セットを装着し設定した条件に沿ってグループで学校周辺（雨天校内）を探索し老化が身体に及ぼす影響や心の変化、日常生活での不便さなどバイアフリーの観点からも考える。介護保険の施設（グッドライフ駅前）で高齢者のコミュニケーションを通して高齢者の特徴を理解し、介護保険の知識を深める。</p>						
テキスト・参考文献						
老年看護学専門分野Ⅱ 老年看護学、老年看護 病態・疾患論						
評価方法						
終講試験（客観テスト）90%、レポート・演習参加状況 10%						

科目名			区分	
老年看護学援助論 I			基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	専任教員(※1)

<授業概要>
高齢者が健康的な日常生活を過ごし、その人らしい人生を送るために保健活動について学ぶ。高齢者のアセスメントの特徴、主な症状とその看護、回復過程の特徴、健康の段階に応じた看護、看護の継続性などについて学習する。
<授業目標(GIO)>
老化による機能の低下及び様々な健康レベルの老年期の対象を理解し、高齢者のもつ健康あるいは生活上のリスクを最少にし、可能性をはかる援助を通して、その人の望む生き方の実現と安らかな死への援助を学ぶ。
<行動目標(SBO)>
1. 老化により機能が低下している高齢者に対する日常生活援助の方法や留意点を理解し、援助の方法を理解し、実施できる。 2. 日常生活機能の程度を適切に評価するための視点について理解でき、活用できる 3. 障害をもった高齢者の状態を把握し、日常生活行動への影響を踏まえ具体的な援助方法について理解できる。 4. 高齢者が治療・検査・処置を受けるときの看護について理解できる。 5. 社会資源を活用した看護の展開について、理解できる。
<授業の留意点>
講義に関連した解剖生理・疾病や経過別看護、援助技術について復習しておく。
<教科書>
系統看護学講座 専門20 老年看護学 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 年看護 病態・疾患論
<参考書>
生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 医学書院

授業計画		備考
1	高齢者のヘルスアセスメント	講義 グループワーク
2	身体の加齢変化とアセスメント(1)	グループワーク
3	身体の加齢変化とアセスメント(2)	講義
4	高齢者の生活機能を整える看護(1)	講義
5	高齢者の生活機能を整える看護(2)	講義
6	高齢者の症候と看護	講義
7	身体疾患のある高齢者の看護(1) 脳卒中 糖尿病 COPD	講義
8	身体疾患のある高齢者の看護(2) がん パーキンソン病 インフルエンザ・肺炎 骨粗鬆症 骨折	講義
9	認知機能障害のある高齢者の看護(1)	講義
10	認知機能障害のある高齢者の看護(2)	講義
11	治療を必要とする高齢者の看護(1) 検査・薬物療法・手術	講義
12	治療を必要とする高齢者の看護(2) 急性期・慢性期の看護 リハビリテーション	講義
13	治療を必要とする高齢者の看護(3) 入退院 保健医療福祉施設について	講義
14	エンドオブライフケア 生活・療養の場における看護	講義
15	高齢者のリスクマネジメント	講義
16	本試験	

成績評価
筆記試験80%・レポート20%

※1 看護師として病院及び在宅分野で実務経験15年以上

領域	専門分野Ⅱ	開講時期	2学年 後期			
科目名	老年看護学援助論Ⅱ (脳神経疾患患者の看護)	単位数 (時間数)	2単位 45時間(うち15時間)			
講 師	非常勤講師					
<p>① 自己紹介、病院紹介</p> <p>② 高齢者社会の現状 (P2~3)</p> <p>③ 老年看護に求められるもの (P12~13)</p> <p>④ 老年看護の特徴 (老年看護学 P74~78)</p> <p>⑤ 医療の動向・死因順位</p> <p>⑥ 脳・神経疾患とは?</p> <p>⑦ 脳・神経疾患患者の特徴 *身体的側面・心理的側面・社会的側面</p> <p>⑧ 脳・神経疾患患者の看護の視点</p> <p>⑨ 急性期の看護目標 (病態・疾患論 P40)</p> <p>⑩ 回復期の看護目標 (看護学 P352~360)</p> <p>⑪ 慢性期の看護目標 (看護学 P355~360)</p> <p>⑫ 終末期の看護目標 (看護学 P325~333)</p> <p>⑬ 意識障害 (病態・疾患論 P40)</p> <p>⑭ 頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア</p> <p>⑮ 頭痛</p>						
<p>① 瘢撲</p> <p>② 運動麻痺 (病態・疾患論 P134)</p> <p>③ 感覚(知覚)障害</p> <p>④ 嘔下障害 (病態・疾患論 P73)</p> <p>⑤ 言語障害、失認、失行 (病態・疾患論 P120)</p> <p>⑥ 排尿障害: 神経因性膀胱 (病態・疾患論 P66)</p> <p>⑦ 脳・神経患者の検査・診断とケア (病態・疾患論 P82)</p>						
<p>① 脳・神経疾患の治療と処置のケア (病態・疾患論 P262)</p> <p>② 手術療法</p> <p>③ 主な脳神経疾患患者の看護</p> <p>1. 脳血管障害患者</p> <p> 1) 脳梗塞 (病態・疾患論 P135) 2) 脳出血 (病態・疾患論 P139)</p> <p> 3) 慢性硬膜下血腫 (病態・疾患論 P140) 4) クモ膜下出血 (病態・疾患論 P143)</p> <p>2. パーキンソン病</p> <p>3. 筋萎縮性側索硬化症 (ALS)</p>						
授業の進め方 (教授方法、教材、教具など)						
1. 講義、スライド						
主テキスト						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護 病態・疾患論」 (医学書院)						
参考文献						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護学」 (医学書院)						
評価方法						
1. 試験 (筆記) 100%						
尚、最終的に当該科目担当教員全員で科目の最終評価を行う。						

領域	専門分野Ⅱ	開講時期	2年生後期			
科目名	老年看護学援助論Ⅱ	単位数(時間数)	1単位 45時間(30時間)			
講師名	非常勤講師					
授業の内容(概要)						
<p>目的</p> <p>健康障害をもつ高齢者を理解し、健康障害及び健康の段階及び対象に応じた看護を、事例展開を通して学ぶ。</p>						
<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害をもつ高齢者の看護を理解し、老年看護に必要な知識・技術を統合できる。 2. 高齢者特有の看護問題の解決のために各段階の思考のステップの考え方を理解できる。 3. 高齢者の自立やQOLを高めるような援助方法について理解できる。 4. 療養生活を支える保健医療福祉施設の特徴及び各職種との連携について理解できる。 						
<p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「大腿骨頸部骨折の高齢者の事例」及び「多発性脳梗塞の高齢者の事例」の事例展開をとおして、加齢に伴う変化及び身体・精神・社会の特徴が理解できる。 2) 健康障害をもつ高齢者と家族の機能、介護家族の課題が理解できる。 3) 手術を受ける高齢者の看護を通して、高齢者と手術侵襲、麻酔侵襲、合併症との影響を理解できる。 4) 加齢によるせん妄、術後せん妄の病態と要因が理解できる。 5) 手術療法を受ける高齢者の事例をとおして、薬物療法を受ける高齢者の看護が理解できる。 6) 事例をとおして、リハビリテーションを受ける高齢者の看護が理解できる。 7) 介護する家族の看護が理解できる。 8) 高齢者の自立支援のための法律・制度を理解し、個に適応できる。 9) 高齢者のQOLを高める援助が理解できる。 10) 退院後に利用できる介護老人保健施設の特徴と看護について、理解できる。 11) 地域包括ケアシステムとは、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることを目的としたシステムであることを理解する。 						
<p>授業の進め方(教授方法、教材・教具)</p> <p>1. 講義 2. グループワーク 2. 演習</p>						
<p>テキスト・参考文献</p> <p>系統看護学講座 専門20 老年看護学 医学書院</p> <p>系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論</p> <p>生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 医学書院</p>						
<p>評価方法</p> <p>終講時試験 90%、 授業・グループワークの参加状況 10%で総合的に評価する。</p>						

科目名			区分	
小児看護学概論			基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	(前期)・後期・通年	30 (1)	(講義)・(演習)・実習	専任教員(※1)

<授業概要>
小児看護の対象である小児と家族の特性を理解し、小児看護の概念、目的、役割を理解する。
子どもの成長・発達について理解し、子どもを取り巻く環境と人権、小児看護の役割が理解できるよう、具体的な、イメージをグループワークや発見学習を行いながら高める。

<授業目標(GLO)>

- ・子どもの成長・発達について理解する。
- ・子どもを取り巻く社会状況とその動向について理解する。
- ・小児各期の成長・発達及び生活に応じた看護について学ぶ。

<行動目標(SBO)>

- ・「子どもとは」について思考し、述べることができる。
- ・子どもを取り巻く社会について理解し、子どもの人権や課題について述べることができる。
- ・小児各期の成長・発達及び生活(栄養・排泄・睡眠・清潔・遊び・安全)に応じた看護について述べることができる。

<授業の留意点>

- ・母子手帳ができるだけ持参。
- ・探索学習や主体的に考える演習を行う。
- ・子どもへのイメージがもてるような物を工夫する。

<教科書>

系統看護学講座「小児看護学概論/小児臨床看護総論」
系統看護学講座「小児看護学各論」 医学書院

<参考書>

小児看護学 筒井真優美 日経研

授業計画		備考
1	・「子どもとは」について・自己・他者の子ども観 ・「小児看護の変遷」・「子どもの権利条約」	グループワーク
2	・現代社会における小児の諸問題 ・「健やか親子21」等	演習
3	・児童虐待	演習 グループワーク ディベート準備
4	・小児をめぐる法律と政策 母子保健・児童福祉法	ディベート グループ発表
5	・成長発達の概念・子どもの健康状態(身体的環境) ・発達の評価 ・エリクソン自我発達理論	講義
6	・新生児 ・ボウルズのアタッチメント理論 ①形態的特徴 ②身体整理の特徴 ・新生児の養育および看護	講義
7	・乳児 ・ピアジェの認知発達理論 ①形態的特徴②身体生理の特徴 ・感覚機能・運動機能・知的機能	講義
8	・子どもの栄養 ・離乳食・幼児食	講義
9	・幼児①形態的特徴②身体生理の特徴 ③知的機能④コミュニケーション機能⑤情緒・社会的	講義・演習
10	・幼児の愛着形成と分離不安・自律性・自発性 ・基本的生活習慣の獲得・排泄・睡眠・衣服・清潔	講義・演習
11	・乳幼児の健康診査と保健指導 1)予防接種の概要 2)予防接種の種類と接種法	講義
12	・不慮の事故 1)小児の事故と事故原因の背景 2)事故予防と安全教育	講義
13	・学童①形態的特徴 ・身長・体重・発育評価 社会的機能・学童期の特徴・社会性発達・不適応行動	講義・演習
14	・思春期・青年期の小児 ・形態的特徴 ・身長・体重・体力 生活の特徴 ・運動不足・睡眠不足・ストレス	講義
15	・学校保健 ・保健教育 ・小児看護学概論まとめ練習問題	講義・演習
16	定期試験	

成績評価
① 定期試験70% ② 課題レポート30%

※1 看護師として病院で実務経験9年以上

領域	専門分野Ⅱ 小児看護学	開講時期	2年 前期			
科目名	小児看護学援助論 I	単位数 (時間数)	1 単位 17 時間／30 時間			
講 師	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
<p>（目的） 小児健康障害をもつ小児各期の対象と援助のあり方を理解する。</p> <p>（目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小児の病態と小児の疾患に対する治療、処置、看護が理解する。 2 小児の疾病の経過に応じた小児と家族の看護を理解できる。 <p>（内 容）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 出生前の疾患 <ol style="list-style-type: none"> 1) 先天代謝異常 2) 染色体異常 2 低出生体重児の特徴と疾患 <ol style="list-style-type: none"> 1) 低出生体重児の特徴 2) 出血性疾患 3) 呼吸窮迫症候群 4) 新生児一過性頻呼吸症 5) 貧血 6) 未熟児網膜症 3 消化器系の疾患 <ol style="list-style-type: none"> 1) 幽門狭窄症 2) 腸重積症 3) ヒルシュスプリング病 4) 先天性胆道閉鎖症 5) 乳児下痢症 4 呼吸器系の疾患 <ol style="list-style-type: none"> 1) 肺炎 5 循環器系の疾患 <ol style="list-style-type: none"> 1) 先天性心疾患 2) 乳幼児突然死症候群 6 血液・造血器の疾患 <ol style="list-style-type: none"> 1) 突発性血小板減少性紫斑病 2) 白血病 7 悪性新生物 <ol style="list-style-type: none"> 1) 腎芽腫（ウイルムス腫瘍） 2) 神経芽細胞腫 8 腎・泌尿器系の疾患 <ol style="list-style-type: none"> 1) 急性糸球腎炎 2) ネフローゼ症候群 9 神経・筋疾患 <ol style="list-style-type: none"> 1) てんかん 2) 熱性けいれん 3) 脳性麻痺 4) 進行性筋ジストロフィー 10 内分泌・代謝系の疾患 <ol style="list-style-type: none"> 1) 尿崩症 2) 下垂体性小人症 3) 糖尿病 4) 単純性肥満症 11 膜原病・免疫・アレルギー <ol style="list-style-type: none"> 1) リウマチ熱 2) 若年性関節リウマチ 3) 気管支喘息 12 感染症 <ol style="list-style-type: none"> 1) 麻疹 2) 風疹 3) 突発性発疹症 4) 水痘 5) 手足口病 6) 流行性耳下腺炎 7) 百日咳 8) ジフテリア 9) 川崎病 13 皮膚・耳鼻咽喉科疾患（病理Vで実施） 14 運動器疾患 15 精神障害・行動異常（精神看護で実施） <ol style="list-style-type: none"> 1) 幼児自閉症 2) 神経性食欲不振症 3) 注意欠陥多動性障害（ADHD） 						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
1 講義						
主テキスト						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 2 小児臨床看護各論（改訂）（医学書院）						
参考文献						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）						
評価方法						
<ol style="list-style-type: none"> 1 試験 100%で評価する。 <p>尚、最終的に当該科目担当教員全員で科目の最終評価を行う。</p>						

領域	専門分野Ⅱ 小児看護学	開講時期	2年 前期			
科目名	小児看護学援助論 I	単位数 (時間数)	1 単位 13 時間／30 時間			
講 師	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
小児の疾病の経過に応じた小児と家族の看護を理解し、健康障害をもつ小児各期の対象の特徴と援助のあり方を理解する。						
I・II 健康を障害された小児の看護						
1. 健康を障害された小児と家族の理解		2. 外来における小児の看護				
1) 健康障害が小児に及ぼす影響 健康障害に対する小児の反応		1) 外来における小児看護の特徴 ・緊急性の把握 ・感染症と他の疾患の区別				
2) 健康障害が家族に及ぼす影響		2) 外来を訪れる小児と母親の特徴. 3) 外来における小児と母親の看護				
3. 入院における小児の看護						
1) 入院が小児に与える影響						
2) 入院が家族に与える影響						
3) 入院時の特徴 ・計画入院、緊急入院時 ・小児病棟の管理・安全管理						
4) 退院時の看護						
III. 小児の疾病の経過に応じた看護						
1) 急性期にある小児と家族の看護 ① 症状のある子どもと家族への援助 (発熱・脱水・痙攣・呼吸困難) * 代表疾患：慢性腎不全		2) 慢性期にある小児と家族の看護				
3) 手術を受ける子どもと家族への看護 1) 手術の時期と種類 2) 手術を受ける子どものプレパレーション 3) 手術を受ける子どもと家族への看護		4) 終末期にある子どもと家族への援助 1) 終末期にある子どもと家族の心理 2) 終末期にある子どもの家族への援助				
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
1. 講義 2. 提出物 3. 演習（グループワーク・発表等）						
テキスト・参考文献						
1. 系統看護学講座 「小児看護学概論／小児臨床看護総論」（医学書院）						
2. 系統看護学講座 「小児臨床看護学各論」（医学書院）						
3. ナーシンググラフィカ小児看護技術（メディカ）						
4. 小児看護学 1 小児と家族への系統的アプローチ（医歯薬出版）						
参考資料：小児看護学 筒井真優美（日総研）、こどもの病気の地図帳 鴨下重彦（講談社）						
評価方法						
1. 試験 90% 2. レポート評価 10%						

科目名			区分	
小児看護学援助論 II			基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期・後期・通年	45 (2)	講義・演習・実習	専任教員(※1)

<授業概要>

- ・様々な健康障害をもつ子どもとその家族への看護過程の展開を行い、小児看護実践能力を習得する。
- ・小児看護に必要な看護技術を習得する。
- ・各看護学と関連を深め、小児看護学援助論Ⅰで学んだ小児疾患・看護(経過別・外来・入院)を活かし対象に応じた知識・技術・態度の統合ができるよう

<授業目標(GIO)>

- ・各看護学と関連を深め、小児看護学援助論Ⅰで学んだ小児疾患・看護(経過別・外来等)を活かし対象に応じた知識・技術・態度の統合ができる。
- ・小児看護技術の特徴と方法の基本が理解できる。
- ・既習科目を活用し、事例のアセスメント～目標・看護計画・実施が校内でできる。

<行動目標(SBO)>

- ・小児科における頻度の高い病態と疾患・治療・処置・看護について述べることができる。
- ・小児の日常生活援助・フィジカルアセスメント技術・検査・処置・治療介助技術の基本ができる。
- ・プレパレーション、ディストラクションを実践する。
- ・ゴードンの看護理論における看護過程を事例を通して練習することができる。

<授業の留意点>

- ・既習の小児疾患・経過別看護を活かしながら、代表的な処置・看護をイメージしやすいよう工夫する。
- ・自主的に臨地実習を想定し小児看護技術練習を計画する。

<教科書>

系統看護学講座「小児看護学概論/小児臨床看護総論」
系統看護学講座「小児看護学各論」 医学書院

<参考書>

- ・「写真でわかる小児看護技術アドバンス」
インターメディカ
- (その他) 資料を教員が用意する

授業計画		備考
1	・障害のある子どもと家族の看護 ・障害のとらえかた・障害の受容過程と家族の理解と看護・重症心身障害児(者)の特徴と理解	講義
2	・在宅療養中の子どもと家族の援助 ・レスパイト入院・人工呼吸器	講義
3	・新生児の看護(ハイリスク新生児と看護) ・低出生体重児の看護・NICUの看護・保育器	講義・演習
4	・子どものアセスメントに必要な技術 ・コミュニケーション・インフォームドアセント	講義・演習
5	・プレパレーション・ディストラクション	講義・演習
6	・身体的アセスメント(各器官の観察のポイント) ・一般状態・一般的外観・成長・発達・問診	演習
7	・検査・処置を受ける子どもの看護 ・与薬・坐薬・注射・輸液・小児用輸液セット	演習
8	・活動制限が必要な子どもと家族の看護 ・隔離・サークルベッド	講義・演習
9	・子どもの検体採取の目的・方法・注意点・看護 ・採血・採尿・穿刺・採尿パック・骨髄・腰椎穿刺	演習
10	・健康障害時の生活援助と症状緩和 ・清潔・栄養(経管栄養)・(浣腸)・口腔・鼻腔・気管内吸引・酸素吸入、テント、ボックス)	演習
11	・救急救命処置が必要な子どもと家族 ・小児の一次救命処置(PBLS)と(PALS) ・溺水と処置・鼻出血・熱傷の特徴、重傷度	演習
12	・災害時の子どもと家族の看護 ・被災地の子どもの言動・反応と対応、ケア	講義・演習
13	・成長・発達段階を考えたアセスメント～ 小児看護過程(ゴードンのアセスメントガイド)	講義・演習
14	・成長・発達アセスメントの方法 ・栄養・代謝	講義・演習
15	・排泄パターン・活動・運動・睡眠・休息パターン	演習
16	・認知・知覚パターン・自己知覚・自己概念パターン	演習
17	・役割・価値・セクシュアリティ・生殖パターン ・コーピング・ストレス耐性・価値・信念パターン	演習
18	事例;「脳性麻痺・てんかん・低酸素血症患児」の看護過程	演習
19	・11パターンアセスメント	演習
20	・関連図について	演習
21	・看護診断について	演習
22	・看護計画について	演習
23	・グループ発表・総まとめ	演習
24	定期試験	演習

成績評価	
・定期試験 60%	・演習10%
・レポート30%	

※1 看護師として病院で実務経験9年以上

領 域	専門分野Ⅱ（母性看護学）	開講時期	2年 前期			
科目名	母性看護学概論	単位数 (時間数)	1単位 30時間			
講 師	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
母性のライフサイクルと各期の身体的、精神的特徴を理解する。母性看護の変遷、女性の社会的役割の変化を関連させ、母性保護の意義を理解する。						
<p>1. 母性看護の概念</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性とは 2) 母性看護の対象理解 3) 母性看護の意義と役割 4) リプロダクティブヘルス/ライフ <p>2. 性と生殖の概念と意義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間の性と生殖 2) セクシュアリティーの分化と発達 3) 性機能と性行動 4) ジェンダーについて 5) 母性看護と生命倫理 <p>3. 母性看護を取り巻く社会の変遷と現状</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 母子保健の動向 2) 母子保健施策からみた現状 3) 母子保健の関係法規と組織 <p>4. 女性のライフサイクルからみた各期の特徴と看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 思春期の健康問題と看護 2) 成熟期の健康問題と看護 <ul style="list-style-type: none"> ・リプロダクティブにおいて生じやすい問題点 ・母性看護に必要な看護技術（ヘルスプロモーション） 3) 更年期の健康問題と看護 						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
1. 講義 2. 視聴覚教材						
主テキスト						
1. 統系看護学講座：母性看護学概論 [I] (医学書院) ※授業時に主に使用する。						
参考文献						
2. 統系看護学講座：母性看護学各論 [II] (医学書院) 3. 国民衛生の動向 ※授業の中で適宜紹介する。						
評価方法						
試験 100% ※出席日数全授業の3分の2に満たない時は評価対象としない。						

領域	専門分野Ⅱ	開講時期	2学年 前期			
科目名	母性看護学援助論Ⅰ	単位数 (時間数)	1単位 15時間／30時間			
講 師	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
<p>〈目的〉</p> <p>1 妊娠・分娩・産褥・新生児の生理的変化と特徴を理解し、母子および家族への適切な看護できる基本を学ぶ。</p> <p>〈目標〉</p> <p>1 妊娠分娩産褥の正常経過と異常経過、新生児の生理についての理解を深める。</p> <p>2 妊娠・分娩・産褥の看護、新生児の看護について理解する。</p> <p>〈内 容〉</p> <p>1 生殖生理と妊娠の経過</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 生殖生理 <ul style="list-style-type: none"> (1)ヒトの発生と遺伝的要素 <ul style="list-style-type: none"> ①発生のメカニズム ②染色体・遺伝子 (2)女性周期と生殖機能のメカニズム <ul style="list-style-type: none"> ①性周期とホルモン ②受胎のメカニズム (3)妊娠の定義・成立 (4)胎盤の形成 (5)生殖をめぐる倫理 <ul style="list-style-type: none"> ①出生前診断 ②不妊治療 ③人工妊娠中絶 ④ハイリスク児の医療 2) 妊娠の経過 <ul style="list-style-type: none"> (1)胎児の発育と生理 (2)妊娠の徵候と診査 <ul style="list-style-type: none"> ①妊娠の徵候 ②妊娠の経過判定の診断、検査 ③妊婦の診察法 (3)胎児と胎盤機能の診断 3) 異常妊娠とその病態生理・検査・治療 2 分娩経過と産婦の理解 <ul style="list-style-type: none"> 1) ハイリスク妊娠 2) PIH合併妊娠 3) 妊娠悪阻 4) 流産・早産 5) 妊娠合併症（糖尿病、心疾患） 6) 子宮外妊娠 7) 胎児および付属物の異常 8) 分娩の経過 <ul style="list-style-type: none"> (1)分娩各期の生理 <ul style="list-style-type: none"> ①分娩の定義 ②分娩の三大要素 ③分娩の機序 (2)産婦の健康診査 <ul style="list-style-type: none"> ①分娩の経過判定の診断、検査 ②産婦の診察法 9) 異常分娩と治療・処置 <ul style="list-style-type: none"> (1)娩出力の異常 (2)産道の異常 						

- ①難産道の異常 ②骨産道の異常
 - (3)胎児・付属物の異常
 - ①胎児の異常によるもの
 - ②付属物の異常によるもの
 - ア 常位胎盤早期剥離 イ 前置胎盤
 - ③妊娠末期・分娩時の異常出血と処置
 - ア 妊娠高血圧症候群
 - (4)分娩時損傷
 - (5)胎児仮死の管理
 - (6)低出生体重児
 - (7)先天異常、障害をもつ新生児
 - (8)死産
- 10) 産科手術
- (1)臍式産科手術 (2)帝王切開術

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

- 1 講義
- 2 資料配布

主テキスト

- 1 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 （医学書院）

参考文献

- 1 国民衛生の動向（厚生統計協会）
- 2 病気が見えるシリーズ 10 「産科」

評価方法

- 1 試験（筆記・技術）100%

領域	専門分野Ⅱ	開講時期	2学年 前期			
科目名	母性看護学援助論Ⅰ	単位数 (時間数)	1単位 15時間／30時間			
講師	非常勤講師					
授業の内容(概要)						
<p>〈目的〉</p> <p>1 妊娠・分娩・産褥・新生児の生理的変化と特徴を理解し、母子および家族への適切な看護できる基本を学ぶ。</p>						
<p>〈目標〉</p> <p>1 妊娠分娩産褥の正常経過と新生児の生理についての理解を深める。</p> <p>2 妊娠・分娩・産褥の看護、新生児の看護について理解する。</p>						
<p>〈内容〉</p> <p>1. 妊婦の看護と保健指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 妊婦の理解 <ul style="list-style-type: none"> ①妊娠による身体の変化 ②妊娠による心理・社会的影响 ③妊婦看護の目標 <p>2. 保健指導の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 妊婦健康診査の必要性 2) 生活指導 <ul style="list-style-type: none"> ①動静 ②妊娠中の清潔 ③妊娠中の美容 ④衣服と腹帯 ⑤はきもの ⑥酒とタバコ⑦排泄の管理⑧乳房の手当て⑨性生活 <p>3. 妊婦の栄養と食生活指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 栄養の必要性 2) 栄養所要量(妊娠期～授乳期) 3) 食事への援助 <ul style="list-style-type: none"> ①貧血 ②妊娠高血圧症候群 ③過剰体重増加 4) 若年妊婦と高年齢妊婦の保健指導 5) マイナートラブルと保健指導 <ul style="list-style-type: none"> ①つわり ②胸やけ ③頻尿 ④腰・背部痛 ⑤静脈瘤 ⑥下肢の痙攣 ⑦便秘 <p>4・産婦の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 分娩期の身体の変化 2) 分娩期の心理・社会的影响 <p>5. 分娩各期の産婦の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 分娩各期の観察の要点 2) 破水時の看護 3) 産婦の準備(分娩の準備) 4) 産婦の安楽への援助 <ul style="list-style-type: none"> ①排泄 ②産痛の緩和 5) 分娩各期にあわせた呼吸法、補助動作の指導 <ul style="list-style-type: none"> (1) 呼吸法、補助動作の意義 (2) 補助動作の方法 (3) 呼吸の方法 <p>6. 産褥の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 産褥の身体の変化 2) 産褥の心理的影響と問題 						

- 3) 褐婦の社会的影響
 - 4) 褐婦の看護の目標
7. 産褥の経過にあわせた観察
- 1) 退行性変化に関する観察
 - 2) 進行性変化に関する観察
 - 3) 全身状態の観察
8. 褐婦の日常生活の看護
- ①睡眠と休養 ②排泄 ③清潔④ 授乳の介助と指導
- 9・母乳栄養確立のための看護
- 1) 母乳栄養の利点
 - 2) 乳汁分泌の促進
 - 3) 母乳栄養を妨げる問題と対策
10. 産後の保健指導
- 1) 指導の時期と注意点
 - 2) 退院指導の要点
 - 3) 産褥体操
11. 新生児の看護の特徴
12. 出生直後の新生児の看護
- ①気道の確保 ②保温 ③観察の要点（アプガー指数の採点）
13. 分娩の計画と準備
- ①心身の準備 ②分娩場所の選定 ③出産用品の準備 ④分娩準備教育

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

1 講義 2 資料配布

テキスト・参考文献

- 1 系統看護学講座 「母性看護学概論」「母性看護学各論」（医学書院）
- 2 病気がみえる産科 メディックメディア

評価方法

1試験（筆記）100%

※出席時間が3分の2に満たない時は評価しない

領 域	専門分野Ⅱ	開講時期	2学年 後期			
科目名	母性看護学援助論Ⅱ	単位数 (時間数)	2単位 45時間(うち15時間)			
講 師	専任教員					
授業の内容(概要)						
<p>〈目的〉</p> <p>1 妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常・異常へのアセスメント能力を身につける基本を学び、母性看護技術の習得ができる。</p>						
<p>〈目標〉</p> <p>1 妊娠・分娩・産褥の異常の看護について理解する。</p> <p>2 母性看護に必要な看護技術を習得できる。</p> <p>3 事例を通して褥婦の看護を理解し、母性看護に必要な知識・技術を統合する。</p>						
<p>〈内 容〉</p> <p>1 異常妊娠時の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 悪阻がある妊婦の看護 2) PIH 合併妊婦の看護 3) 妊娠貧血がある妊婦の看護 4) 多胎妊娠妊婦の看護 5) 流・早産妊婦の看護 6) ハイリスク妊婦の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)ハイリスク妊娠の定義 (2)ハイリスク妊婦の保健指導 (3)妊娠中の偶発全身性疾患妊婦の看護 (4)その他の異常妊娠の看護 ①子宮外妊娠 ②胞状奇胎 <p>2 異常分娩の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 婦出力の異常時の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)微弱陣痛 <ul style="list-style-type: none"> ①観察の要点 ②看護の要点 (2)過強陣痛 <ul style="list-style-type: none"> ①観察の要点 ②看護の要点 (3)腹圧の異常 <ul style="list-style-type: none"> ①看護の要点 2) 産道の異常と看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)骨産道の異常と看護の要点 (2)軟産道の異常と看護の要点 3) 骨盤位分娩時の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)早期破水の予防 (2)腹圧の指導 4) 異常出血時の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)常位胎盤早期剥離 (2)前置胎盤 (3)弛緩出血 <ul style="list-style-type: none"> ①観察の要点 ②看護の要点 5) 帝王切開時の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)準備 (2)術後の観察とケア <p>3 異常産褥時の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 子宮復古不全の褥婦の看護 2) 産褥熱の褥婦の看護 3) 乳房・乳頭の異常がある褥婦の看護 						

4) 産褥期精神障害のある患者の看護

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

1 スライド+講義

2 グループワーク

テキスト・参考文献

病気が見えるシリーズ 10 「産科」

評価方法

試験 100%

領 域	専門分野Ⅱ	開講時期	2学年 後期			
科目名	母性看護学援助論Ⅱ	単位数 (時間数)	2単位 45時間(うち20時間)			
講 師	非常勤講師					
授業の内容(概要)						
<p>〈目的〉</p> <p>1 妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常・異常へのアセスメント能力を身につける基本を学び、母性看護技術の習得ができる。</p> <p>〈目標〉</p> <p>1 母性看護に必要な看護技術を習得できる。</p> <p>〈内 容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 妊婦健康診査の目的 2. 子宮底、腹囲の測定 <ul style="list-style-type: none"> 1) 測定時の注意 2) 測定方法 3. レオポルド触診法 <ul style="list-style-type: none"> 1) 目的 2) 触診前の準備と留意点 3) 触診方法 4. 胎児心音聴取法 <ul style="list-style-type: none"> 1) 聽取器具 2) 胎児心音の聴取部位 3) 胎児心音聴取の注意点 4) 胎児心音聴取の方法 6. 妊娠期の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 妊婦体験 2) 妊婦体操 7. 分娩期の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 産痛緩和法 8. 産褥期の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 産褥体操 2) 子宮復古のアセスメントと子宮底輪状マッサージ 3) 悪露のアセスメントとケア 4) 外陰部・肛門部の創傷のアセスメントとケア 5) 乳房の手当 6) 授乳介助 7) 排氣の仕方、抱き方 9. 新生児の観察 <ul style="list-style-type: none"> 1) 体温、心拍数、呼吸数の測定 2) 全身の観察 3) 身体の計測 4) 黄疸の検査 						

10. 新生児のケア

- 1) おむつのあて方
- 2) 沐浴
- 3) 脣処置

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

- 1 講義
- 2 視聴覚教材
- 3 グループワーク
- 4 演習

テキスト・参考文献

- 1 系統看護学講座 [2]母性看護学各論（医学書院）

評価方法

レポート評価（提出状況）20%、試験（筆記）80%で評価

※出席日数が全授業の3分の2に満たない時は評価対象としない。

領域	専門分野Ⅱ	開講時期	2学年 後期			
科目名	母性看護学援助論Ⅱ	単位数 (時間数)	2単位 10時間／45時間			
講 師	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
<p>1. ウエルネス看護過程にもとづく母性看護過程</p> <p>2. 事例展開</p> <p>① 複婦</p> <p>② 新生児</p>						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
講義、グループワーク						
主テキスト						
<p>1 病気が見えるシリーズ 10 「産科」</p> <p>2 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 (医学書院)</p>						
参考文献						
評価方法						
平常点 10%、レポート評価 90%						

領 域	専門分野Ⅱ	開講時期	1年次後期			
科目名	精神看護学概論	単位数 (時間数)	1単位(30)			
講 師	専任教員					
授業の内容（概要）						
(目的) 精神看護学は、精神に障害がある人のみでなく、心の問題を抱えるあらゆる人々が対象であり、小児から老年までのライフサイクルを考慮しながら、人々の心の健康を保持・増進するために果たすべき看護の役割について学ぶ。						
(目標) 1. 心の健康について理解できる。 2. 心の健康に影響を及ぼす要因について理解できる。 3. 人の心の発達段階をライフサイクルとともに理解することができる。 4. 精神障害者の権利擁護における看護の役割が理解できる。						
(内容) 1. 精神看護学で学ぶこと 1) 「心のケア」と現代社会 2) 精神看護学とその課題 2. 精神保健の考え方 1) 精神の健康とは 2) 精神障害のとらえ方 3) ストレスと健康の危機 3. 人間の心のはたらきとパーソナリティ 1) 人間の心の諸活動 2) 心のしくみと人格の発達 4. 関係のなかの人間 1) 全体としての家族 2) 人間と集団 5. 精神科で出会う人々 1) 精神を病むことと生きること 2) 精神症状論と状態像 6. 精神科での治療 1) 精神科における治療 2) 薬物療法・電気けいれん療法 3) 精神療法 4) 環境療法・社会療法 7. 社会のなかの精神障害 1) 精神障害と治療の歴史 2) 日本における精神医学・精神医療の流れ 3) 精神障害と文化 3) 精神障害の体験と精神看護 4) 精神看護学でなにを学ぶのか 4) 心的外傷が精神の健康に及ぼす影響 5) 回復（リカバリー）を支える力 3) 精神障害の診断と分類 5) 精神障害と法制度						

授業の進め方（授業方法、教材、教具など）

1. 講義 2. グループワーク 3. 視覚的教材（DVD 等）

テキスト・参考文献

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①（医学書院）
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②（医学書院）
3. 中範囲理論
4. 精神看護学 I 精神保健学 第6版（ヌーヴェルヒロカワ）
5. 精神看護学 II 精神臨床看護学 第6版（ヌーヴェルヒロカワ）

評価方法

- 筆記試験 出席状況 グループワーク時の態度

領 域	専門分野Ⅱ	開講時期	2学年 前期			
科目名	精神看護学援助論 I	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間／30 時間			
講 師	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
<p>精神疾患各論</p> <p>症状、検査、治療について</p>						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
パワーポイント、資料配付						
主テキスト						
1 専門Ⅱ 精神（1）精神看護の基礎 （医学書院）						
2 専門Ⅱ 精神（2）精神看護の展開 （医学書院）						
参考文献						
なし						
評価方法						
試験 100%						

領 域	専門分野Ⅱ 精神看護学	開講時期	2年 前期			
科目名	精神看護学援助論Ⅰ	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間／30 時間			
講 師	非常勤講師					
授業内容（概要）						
<科目目的>						
1. 精神障害を持つ対象の特徴と自立回復に向けての援助のあり方を理解する。						
<科目目標>						
1. 主な精神症状と状態及び疾患について理解できる。 2. 司法精神看護の特徴を理解できる。						
<内容>						
1. 精神看護の実践						
1) 幻覚・妄想の患者の看護	12) 不安状態の患者の看護					
2) せん妄の患者の看護	13) 意欲減退患者の看護					
3) 抑うつ状態の患者の看護	14) 攻撃的行動をとる患者の看護					
4) 興奮状態の患者の看護	15) 強迫行動をとる患者の看護					
5) 拒絶的な患者の看護	16) 躁状態の患者の看護					
6) 引きこもり状態の患者の看護	17) 解離性障害の患者の看護					
7) 操作をする患者の看護	18) 摂食行動障害の患者の看護					
8) 自殺・自傷行為のある患者の看護	19) パニック障害の患者の看護					
9) 不眠状態の患者の看護	20) 児童思春期・青年期の精神看護					
10) 依存状態の患者の看護	21) 身体合併症患者の看護					
11) 認知症の患者の看護						
2. 司法精神看護						
1) 司法精神医療と医療観察法						
2) 医療観察法における処遇の流れ						
3) 抱括的暴力防止プログラム(CVPPP)						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
1. 講義 (DVD・パワーポイント使用。教本に沿って臨床の実例を紹介し、具体的に講義する。)						
主テキスト						
1. 専門Ⅱ 精神（1）精神看護の基礎 （医学書院）						
2. 専門Ⅱ 精神（2）精神看護の展開 （医学書院）						
参考文献						
なし						
評価方法						
1. 試験 95% 2. レポート 5% で評価を行う 最終的に当該科目担当教員全員で科目の最終評価を行う。						

領 域	専門分野Ⅱ	開講時期	2年次後期			
科目名	精神看護学援助論Ⅱ	単位数 (時間数)	2 単位 (30/45)			
講 師	非常勤講師					
授業の内容（概要）						
<p>精神看護学概論で学んだ精神保健についての考え方をふまえ、精神科看護の援助の基本を学ぶことができる。</p> <p>事例を通して、精神に障害を持つ患者の看護過程の展開ができる。</p>						
<p>I. 精神臨床看護の考え方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神臨床看護学 2. 精神科看護師の役割 <p>II. 精神看護援助の基本と技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者一看護師関係 2. セルフケアの援助 3. 精神看護の看護過程 4. 生きる力と強さ <p>III. 入院から社会生活の継続までの看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患患者の理解 2. 安全管理 3. 急性期から回復期、慢性期の看護 <p>IV. 看護過程の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症患者の看護過程の展開 						
授業の進め方（教授方法、教材、教具など）						
1. 講義 2. グループワーク 3. 視覚的教材 (DVD 等)						
テキスト・参考文献						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学Ⅰ 精神保健学 (ヌーベルヒロカワ) 2. 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 (ヌーベルヒロカワ) 3. 資料プリント等 						
評価方法						
試験 90%、プロセスレコード（提出状況） 10%						

領 域	専門分野Ⅱ	開講時期	2年次後期
科目名	精神看護学援助論Ⅱ	単位数 (時間数)	2単位(45)内15時間
講 師	非常勤講師		

授業の内容（概要）

オレムーアンダーウッドモデル、MSE、自我機能の理解にもとづき、精神障害を有する患者の看護過程の展開ができる。

I. オレムーアンダーウッドモデル

1. モデルのベースとなるオレムのセルフケア理論
2. オレムーアンダーウッドモデル

II. MSE（メンタルステイタス エグザミネーション）

III. 自我・人格の機能

IV. 統合失調症患者への看護展開

V. 気分障害患者への看護展開

授業の進め方（教授方法、教材、教具など）

1. 講義
2. グループワーク

テキスト・参考文献

1. 専門Ⅱ 精神（1）精神看護の基礎（医学書院）
2. 専門Ⅱ 精神（2）精神看護の展開（医学書院）
3. 資料・プリント

評価方法

試験 100%

科目名			区分	
在宅看護概論			基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	専任教員(※1)

<授業概要>
高齢社会の到来したわが国では、在宅療養者の急増とともに地域包括ケアシステムの構築が早急な課題である。疾病や障害を持ちながらも住み慣れた地域での生活を送るための看護介入が必要不可欠である。即ち、在宅看護の対象は高齢者のみならず、地域で生活するあらゆる年代の療養者とその家族あり、これまで学習した成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学の知識と技術を統合した生活の場での療養を支える看護の工夫や創造力を養うことである。

<授業目標(GIO)>
地域包括ケアシステムを理解し、在宅看護の必要性、目的、対象、役割について学ぶ。

<行動目標(SBO)>
①在宅看護の目的と特徴が理解できる。
②在宅看護の対象者が理解できる。
③在宅療養の支援内容や方法が理解できる。
④在宅看護にかかわる法令・制度とその活用について理解できる。

<授業の留意点>
在宅はすべての人が戻る場所であり、全領域を統合した看護の基礎となる科目であるため、十分な復習が必要である。

<教科書>
系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院

<参考書>
角田直枝 編、知識が身につく！実践できる！よくわかる在宅看護、Gakken、

授業計画		備考
1	在宅看護の目的と特徴	講義
2	在宅看護の対象者(特徴・家族・住まい・地域)	講義
3	在宅療養の支援(提供方法・療養の場の移行)	講義
4	在宅療養の支援(在宅看護の基本)	講義
5	在宅看護にかかわる法令・制度(介護保険・医療保険)	講義
6	在宅看護にかかわる法令・制度(障害者総合支援法・難病法)	講義
7	在宅看護にかかわる法令・制度(医療介護総合確保推進法・医療法・その他主な公費負担医療)	講義
8	介護保険制度(対象者・手続き)	講義
9	介護保険制度(給付対象となるサービス・利用料)	講義
10	訪問看護の制度(利用・ステーションに関する規定)	講義
11	訪問看護の制度(訪問看護利用手順・費用)	講義
12	訪問看護サービスの提供	講義
13	ケアマネジメントと社会資源の活用	講義
14	地域における多職種連携	講義
15	事例を通して法令・制度・社会資源・連携についてグループワーク	講義・演習
16	筆記試験、まとめ	

成績評価
筆記試験100%

※1 看護師として病院及び在宅分野で実務経験17年以上

科目名			区分	
在宅看護援助論 I			基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期・後期・通年	45 (2)	講義・演習・実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要>
在宅看護論概論で学んだ在宅看護の意義(家族を単位とした生活支援の必要性、自己決定権の尊重、看護師のコーディネーター的役割)をふまえ、具体的な在宅看護技術について学習する科目である。
<授業目標(GIO)>
地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し在宅での看護の基本を学ぶ。
<行動目標(SBO)>
<p>①在宅看護過程の展開のポイントを理解し、展開方法について学ぶことができる。</p> <p>②在宅看護における医療事故防止や感染防止について理解できる。</p> <p>③災害時の在宅看護について訪問看護師の役割や対応などが理解できる。</p> <p>④療養者の日常生活を生活行為として総合的に見ていくことが理解できる。</p> <p>⑤在宅で求められる看護技術が理解できる。</p> <p>⑥在宅において展開される医療技術とそれに伴う看護について学ぶことができる。</p>
<授業の留意点>
在宅看護論実習の基礎となるものであり、授業の内容を復習すること。
<教科書・参考書>
系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 角田直枝 編、知識が身につく！実践できる！よくわかる在宅看護、Gakken, 2017年第3版

授業計画	備考
1 在宅看護過程展開のポイント	講義
2 在宅看護過程の展開方法	講義
3 療養上のリスクマネジメント、在宅看護における権利保障	講義
4 フィジカルアセスメント、緊急時の対応疼痛のマネジメント	講義
5 慢性疾患患者への対応、高齢者・認知症患者への対応、ターミナル期患者の看護	講義
6 事例による在宅看護の看護過程の展開1	講義
7 事例による在宅看護の看護過程の展開2	講義
8 事例による在宅看護の看護過程の展開3	講義
9 在宅看護技術(在宅で看護を展開するにあたって)	講義
10 在宅看護技術(在宅で求められる看護技術)	講義
11 在宅看護技術(在宅における医療管理を要する人の看護)	講義
12 処置別・在宅看護援助方法	講義
13 処置別・在宅看護援助方法(排痰・吸引・吸入ネブライザー)	講義
14 処置別・在宅看護援助方法(気管カニューレ)	講義
15 処置別・在宅看護援助方法(在宅人工呼吸療法)	講義
16 処置別・在宅看護援助方法(在宅酸素療)	講義
17 処置別・在宅看護援助方法(経管栄養・胃瘻)	講義
18 処置別・在宅看護援助方法(膀胱留置カテーテル)	講義
19 処置別・在宅看護援助方法(ストーマケア)	講義
20 処置別・在宅看護援助方法(在宅がん化学療法)	講義
21 看護者の基本的なマナー	演習
22 療養者・家族との関係の取り方	講義
23 初回訪問の重要性について	講義
24 定期試験、まとめ	
成績評価	
課題30%、筆記試験70%	

※1 看護師として病院及び在宅分野で実務経験15年以上

※2 看護師として病院及び在宅分野で実務経験15年以上

科目名			区分	
在宅看護援助論Ⅱ			基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数(単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期・後期・通年	30(1)	(講義)・(演習)・実習	専任教員(※1)

<授業概要>
在宅看護論概論、援助論Ⅰにおける学習で構築された在宅看護観(在宅看護に対する考え方)とともに、在宅における看護展開技術を学習する科目である。
<授業目標(GIO)>
在宅看護の活動の場と訪問看護師の役割について理解し、在宅で提供する基礎的な看護技術を演習を通して身につけ、他職種と協働することができる。
<行動目標(SBO)>
①3事例の在宅での看護過程の展開ができる。 ②事例を通して介護者・家族への援助が理解できる。 ③事例を通して多職種連携について理解できる。 ④事例を通して社会資源の活用状況について理解できる。
<授業の留意点>
3年次の臨地実習時の看護過程の展開につながる科目であり、十分な復習が必要である。
<教科書>
系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院
<参考書>
角田直枝 編、知識が身につく! 実践できる! よくわかる在宅看護、Gakken、

授業計画		備考
1	在宅看護介入時期別の特徴と目的 ICFの成り立ちと活用	講義
2	ALS病態生理復習 難病法の復習と社会資源	講義
3	ALS事例①紹介	講義
4	事例①の生活背景を考えるグループワーク	講義・演習
5	事例②の紹介 ICFの枠組みを活用した分析 関連図	講義・演習
6	事例②の生活課題抽出 看護計画立案	講義・演習
7	事例②評価と振り返り 家族看護の考え方	講義
8	エンドオブライフケア 在宅での見取りのケアについて 緊急時の対応の視点	講義・演習
9	事例③の紹介 ICF分析	講義・演習
10	事例③の関連図	講義・演習
11	事例③の看護問題抽出 看護計画立案	講義・演習
12	関連図、看護問題の抽出	講義・演習
13	事例③看護計画立案	講義・演習
14	事例③の評価とまとめ	講義・演習
15	事例に沿った看護援助の実施	講義
16	筆記試験、まとめ	

成績評価
課題提出40%、筆記試験40%、グループワーク20%

※1 看護師として病院で実務経験31年以上

科目名			区分	
看護管理			基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期・後期・通年	15 (1)	講義・演習・実習	専任教員(※1)

<授業概要>		授業計画	備考
1	・看護の専門職業人として、組織の一員である自覚を十分に高める。 ・組織が機能し、組織の目標を達成するために様々なルールが整備されていることを認識する。 ・組織を維持するために、管理者に求められる危機管理意識を身につける。	第1章 組織は人で構成され、組織化手法により成果が異なることからマネジメント理論を学ぶ。	講義
2	<授業目標(GIO)> ・看護活動が有効に機能するための組織・管理について、理解する。	第3・4章 質の高い看護サービスを提供するために必要な看護提供システムと人材育成を学ぶ。	演習
3	<行動目標(SBO)> ・マネジメントの原理・原則を理解することができる。 ・人、モノの具体的なマネジメント手法を述べることができる。 ・医療安全に関する日常及び緊急時の対応を身につける。 ・組織の一員としての意識と行動が理解できる。 ・組織を指揮するイメージをもって、統合実習に臨むことができる。	第4章 医療の質や効率性、安全性のために、設備・物品、情報管理とその第三者評価の必要性を学ぶ。	講義・演習
4		第5章 集団特性に応じたマネジメントを実践するため、リーダーシップ、動機づけ、変革の理論を学ぶ。	講義
5		第2章 日本の医療安全の歴史を知り、法・制度に基づく医療安全管理体制や報告システムを理解する。	講義
6		第2章 重大事故事例のSHELL分析を行い、事故の発生機序と再発防止のしくみを理解する。	講義・演習
7		第6章 専門職業人として、法・制度(入院基本料など)を正しく理解し自己の役割と責任を自覚する。	講義・演習
8		本試験	
<授業の留意点>			
・看護師長になったつもりで参加する。			
<教科書>			
「看護管理」、「医療安全」医学書院			
「臨床看護総論」医学書院			
<参考書>		成績評価	
		筆記試験100%	

※1 看護師として病院で実務経験13年、看護管理17年以上

領域	統合分野（看護の統合と実践）	開講時期	3年前期		
科目名	災害看護	単位数 (時間数)	1単位 30時間		
講師	非常勤講師				
授業の内容（概要）					
<p>〈目的〉 災害の定義や法的根拠などの基本的知識理解した上で、災害サイクル各期で個人あるいは集団に看護職が果たす役割について学ぶ。</p> <p>〈目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 災害および災害看護に関する基本的知識を理解できる。 2 災害が人々の生活や健康に及ぼす影響について理解できる。 3 災害サイクルに応じた看護活動を理解できる。 4 災害時における看護の実際を学び、看護が果たす役割が理解できる。 <p>〈内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 急性期・亜急性期（災害発生直後から1か月程度） <ol style="list-style-type: none"> (1) 災害現場におけるDMAT隊員の活動について <ul style="list-style-type: none"> 出動から被災地へ・救護活動の実際・トリアージ 災害現場における他専門職種との協働について (2) 医療機関における救命救急活動について <ul style="list-style-type: none"> (入院患者・外来患者の安全確保と被災傷病者の受け入れ) (3) 救助された重症患者の看護 (4) 避難所での感染防止対策（こころのケア・保健指導） 2 静穏期 災害看護教育や救護訓練について <p>〈内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 災害医療の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害の定義と種類・災害サイクルから考える災害医療 2) 災害と情報・災害に関わる職種関連系・災害と法律 2 災害看護の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害看護の定義と役割 2) 災害看護の特徴と看護活動 3 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 急性期・亜急性期 <ol style="list-style-type: none"> (1) 被災病院の受け入れ(2)救護所・避難所の立ち上げ(3)感染制御(4)トリアージ 4 慢性期・復興期 <ol style="list-style-type: none"> 1) 仮設住宅における被災者への生活支援と看護の役割 2) ボランティア 5 被災者特性に応じた災害看護の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子ども・妊娠婦・高齢者・障害者・精神障害者・慢性疾患患者・在日外国人 2) 災害とこころのケア 7 災害看護演習：救急法・三角巾を使用した傷の手当て・担架搬送 	授業の進め方(教授方法、教材、教具など)				
1 講義、2 演習					
テキスト・参考文献					
1 統合看護学講座 災害看護学・国際看護学					
評価方法					
1 筆記試験 90% 2 演習評価・レポート 10%					

科目名			区分	
臨床看護の実践			基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要>
「統合分野」は、知識や技術をすべて統合し、臨床の実務に近い環境で看護を提供する方法を学ぶ内容である。学内での事例演習において、看護業務に対するイメージをつくりあげができるよう、タイムマネジメントに必要なアセスメントやケアの優先順位を決定する思考過程を体験し、さらに、実際に看護業務を演じることで、自ら検証することによって、看護マネジメントを学んでいく。
<授業目標(GIO)>
卒業時に求められる知識・技術を習得し対象の状態に応じた看護を実践する能力を身につける。
<行動目標(SBO)>
①臨床実践に近い形で、看護技術を習得する。 ②卒業時に求められる基礎看護技術の到達度を評価し、習得する。
<授業の留意点>
看護業務に対するイメージをつくりあげにくい現状にあるため、臨地実習に即した内容とする。
<教科書>
解剖生理学、病理学、成人看護学など
<参考書>
系統看護学講座 統合分野 医療安全 医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護管理 医学書院

授業計画		備考
1 優先順位とは		講義
2 時間管理・他職種との調整について		講義
3 タイムスケジュール立案の方法		講義
4 多重課題の優先度とは		講義
5 優先度を踏まえた1日のタイムスケジュールを立案		講義
6 複数患者の看護展開(事例紹介・アセスメント)		講義
7 複数患者の看護展開(優先順位の視点)		講義
8 複数患者の1日の看護計画(タイムスケジュール)		講義
9 患者の状態変化とタイムスケジュール変更		講義
10 優先順位の確認		講義・演習
11 タイムスケジュール発表準備		講義・演習
12 タイムスケジュール変更発表		講義・演習
13 緊急時の看護の実施		演習
14 緊急時の看護の実施		演習
15 気管内吸引技術試験		技術試験
16 筆記試験、まとめ		

成績評価
課題提出50%, 筆記試験30%, 技術試験20%

※1 看護師として病院で実務経験22年以上

※2 看護師として病院及び在宅分野で実務経験15年以上

領 域	統合分野	開講時期	2年後期
科目名	国際看護	単 位 数 (時間数)	1 単位(15)
講 師	専任教員		

【目的】

様々な国や地域における健康の状況や健康問題を理解し、国際看護の視点を養うとともに、海外医療活動の組織や仕組み、看護の実際を理解する。

【目標】

1. 社会システム、保健医療システム、文化など保健医療・健康・看護の格差を理解する
2. 国際協力を知り、文化に適した看護を考える
3. 国内における格差や文化的差異を理解し、在日外国人の問題を理解し、看護を考える

回数	内 容
第1回	<p>概論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際看護学の概念 国際看護学とは 国際看護の実践 先進国・発展途上国 2. 世界の健康問題の現状 人口 保健指標 健康問題の背景
第2回	<p>概論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際看護の主要概念 開発 プライマリーヘルスケア人間の安全保障 ミレニアム開発目標 2. 国際協力諸機関と協力の仕組み 国際機関 政府援助 非政府組織 3. 発展途上国の保健・医療システムと看護の国際協力 保健・医療システム、国際協力過程と保健・医療システムの重要性
第3回	<p>各論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 異文化看護 グローバル化・少子高齢化・移住外国人の増加 在留外国人の内訳、背景の健康リスクと健康格差 保健医療サービスへのアクセシビリティ 異文化を理解する基本概念
第4回	<p>各論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際協力における情報収集・アセスメント・計画策定・実施と評価 2. 国際協力活動の展開
第5回	<p>各論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康 IMCI (小児疾患統合管理)、栄養不良と成長モニタリング 予防接種、特徴的な疾患管理
第6回	<p>各論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リプロダクティブ・ヘルスの経緯、妊娠・出産に伴う女性の問題と権利
第7回	<p>各論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症対策 2. 住民参加と健康教育 3. 国際緊急援助と住民の健康
<p>* 災害看護学・文化人類学と関連させて授業を展開していく。</p>	
<p>授業の進め方(教授方法、教材、教具など)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 2. グループワーク 	
<p>テキスト・参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 災害看護学・国際看護学、 	
<p>評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. レポート提出 3. 授業態度・出席状況 	